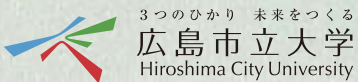


広島市立大学コミュニケーションマーク

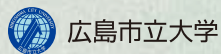
「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」という建学の基本理念を中心とした大学のブランドイメージを表現するツールの一つとして、コミュニケーションマークを新たに作成しました。



●コミュニケーションマーク作成意図

磁力に吸い寄せられるように集まり、互いに刺激し合い、そして解き放たれる3つの光。大学の新しいタグラインである「3つのひかり 未来をつくる」からイメージを展開し、固定観念に囚われず、多角的な見地から可能性を模索していく3学部を表した図像としてデザインしました。さらに、ユーザーによるカスタマイズを可能にするプログラムを使用することで、可変性のあるマーク作りを可能としました。新しいイメージを展開しながら一つのブランドとしての印象を損なわない新しいスタイルのマークです。

現有するシンボルマークは、これまでどおり校章として使用します。



※詳しくは、大学のウェブサイトをご覧ください。



3つのひかり 未来をつくる
広島市立大学
Hiroshima City University

〒731-3194
広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号
tel.082-830-1500 (代) fax.082-830-1656

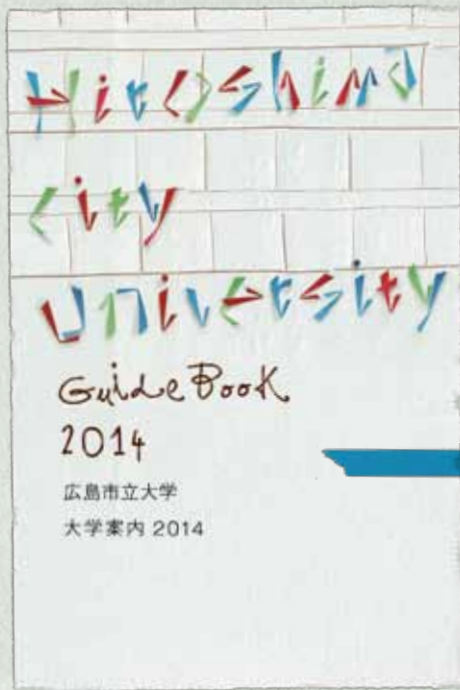
<http://www.hiroshima-cu.ac.jp>

Hiroshima City University

Guide Book 2014

大学案内 2014

広島市立大学



国際学部 International Studies 情報科学部 Information Sciences 芸術学部 Arts

国際、情報、芸術、そして平和という特色ある学びと、知的好奇心旺盛な学生たち。

キャンパスに存在するすべてが、探究の旅に出發したあなたを未来へと導きます。

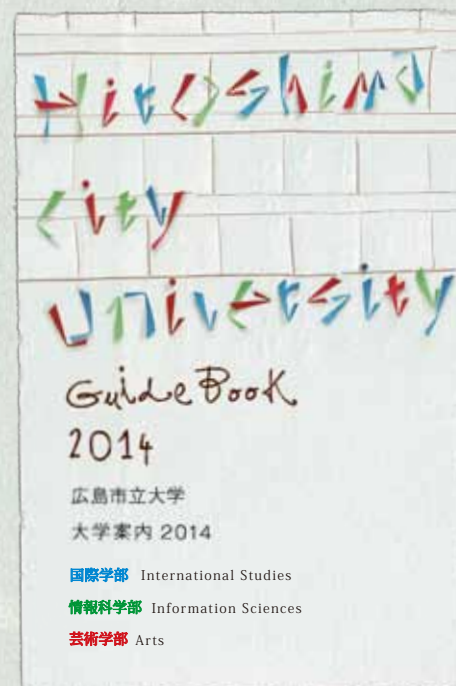
今はまだゴールが見えないかもしれない。もししたらゴールなんてないのかもしれない。

すぐに答之が見つからなくても、自ら考之、自らの言葉で伝えることに意味があります。

夢を見つけるヒントは、すべて自分の中に。

広島市立大学で、刺激に満ちたキャンパスライフ。





Contents

Voices(在校生)	013
学長メッセージ	034
建学の基本理念	036
アドミッション・ポリシー	037
学部構成図	038
全学共通科目	040
外国語系科目・資格取得関係科目	042
国際交流	043

大学院	125
広島平和研究所・附属施設	129
・広島平和研究所	130
・附属施設	131

Campus Life	134
・年間スケジュール	136
・大学生活サポート	137
・クラブ・サークル	138
・Campus Map	140

就職・Voices(卒業生)	143
ウェブサイト紹介	152
入試情報	154
Free	156
アクセスマップ	164

国際学部 International Studies

学部長メッセージ	046
求める人物像	054
教育方針	055
年次チャート、学部共通科目	056
5つのプログラム	057
・国際政治・平和プログラム	058
・公共政策・NPOプログラム	059
・多文化共生プログラム	060
・言語・コミュニケーションプログラム	061
・国際ビジネスプログラム	062
国際理解・少人数教育の重視	063
HIROSHIMA and PEACE	064
CALL英語集中	065
教員一覧	066
プロジェクト一覧	068

情報科学部 Information Sciences

学部長メッセージ	072
求める人物像	080
教育方針	081
年次チャート、学部共通科目	082
[情報工学科]	083
・コンピュータコース	084
・ネットワークコース	085
[知能工学科]	086
・知能ソフトウェアコース	087
・知能メディアコース	088
[システム工学科]	089
・制御・メカトロニクスコース	090
・通信・インタフェースコース	091
[医用情報科学科]	092
・医用情報コース	093
・光・電子計測コース	093
臨床情報医工学プログラム	094
教員一覧	095
研究設備・実験風景	098

芸術学部 Arts

学部長メッセージ	102
求める人物像	110
教育方針	111
年次チャート、学部共通科目	112
[美術学科]	113
・日本画専攻	114
・油絵専攻	114
・彫刻専攻	115
[デザイン工芸学科]	116
・現代表現	117
・視覚造形	117
・立体造形	118
・メディア造形	118
・金属造形	119
・染織造形	119
・漆造形	120
教員一覧	121
創作工房・実習アトリエ一覧	122

学問を面白くするヒントが

ここにはあります



「知らないことを知りたい」と

知的欲求を満たすだけでなく、

「分からないことを明らかにしたい」と

答えを探し求める道っりには、ワクワクがいっぱい。

「もっともっと」

好奇心がどんどんあふれて、

終わりのない探究の旅に、いつの間にか夢中。

知の層は、もっと深く、もっと厚く、

そして少しずつ真理に近づいていく。

このキャンパスは、そんな充実感を与えてくれる。

初めての一步を踏み出す時は一人だった。

さりげなく道しるべを残してくれた先生、

励ましてくれた先輩、寄り添ってくれた友達...

気がつけば仲間がたくさんいて、

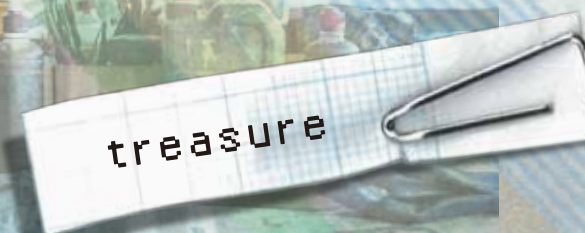
おかげで、くじけずにここまで来れたんだ。

真剣に何かを探し求めている人には、

情報や仲間が自然と集まってくる。

まずは本気になれるコトを見つけよう。

真っすぐな気持ちで、全力でぶつけられる環境がここにある。



treasure

宝物を見つけるヒントが

ここにはあります

pleasure

最初はなかなか理解できなかった講義。

でも教授の話がなんとなく面白くて休まずに出席していたら
もっと知りたいって興味がわいて、今は大学院を目指している。

放課後、楽しくサークルに向かう友達がおよっとうちやましくて、

「一緒に連れてって」とお願いしてみた。

3学部先輩や後輩が入り交じって、あれもやるう、これもやるうってワイワイ。

みんな個性的なのに、なぜか最後は一致団結しているから不思議。

ここには、ユニークで頼れる教授や、バイタリティーあふれる仲間がいっぱい。

「やりたいことが見つからない」となる悩みも、

ほんの少しがマンと勇気で

「やりたいことがありすぎ」なんて楽しみに変わるはず。

今さめいっぱい楽しむヒントが

ここにはあります

「やってみたい！」という気持ちに素直に突き進み、

チャレンジし続ける仲間たち。

未知の挑戦って、胸が高鳴る。

だけど、勇気を出して立方向がっても、思い通りにいかないことがある。

そんな時は、リベンジしたい自分と、

もう傷つきたくない臆病な自分が行ったり来たり。

ふと隣を見ると、「次があるさ」と前を向く仲間の笑顔。

自分だけ立ち止まっているわけにはいかない。

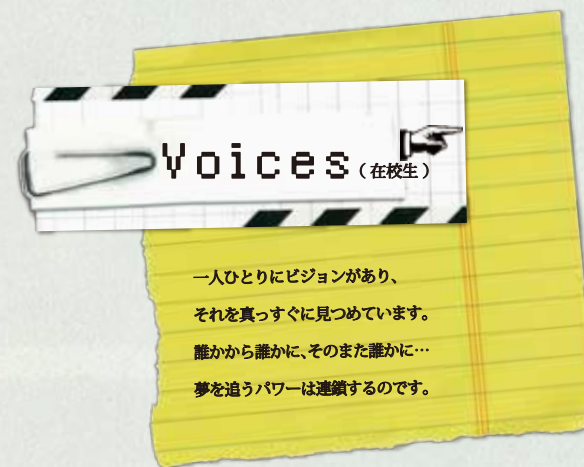
少しずつでも、前に進まなかつ見えない景色があると、

たくさんの方が教えてくれる。

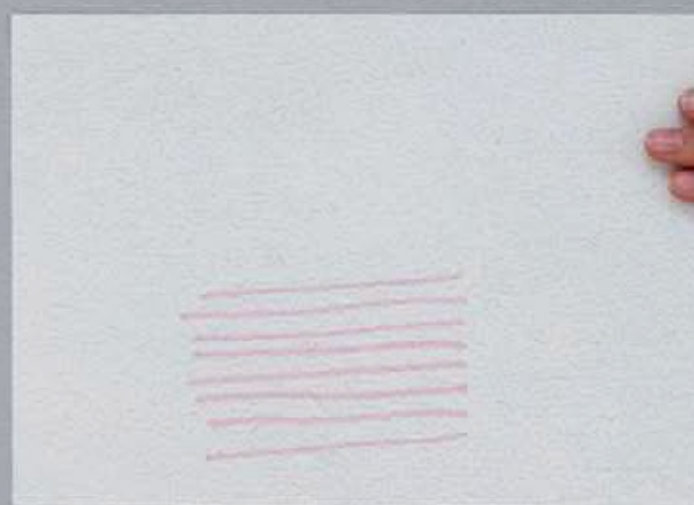
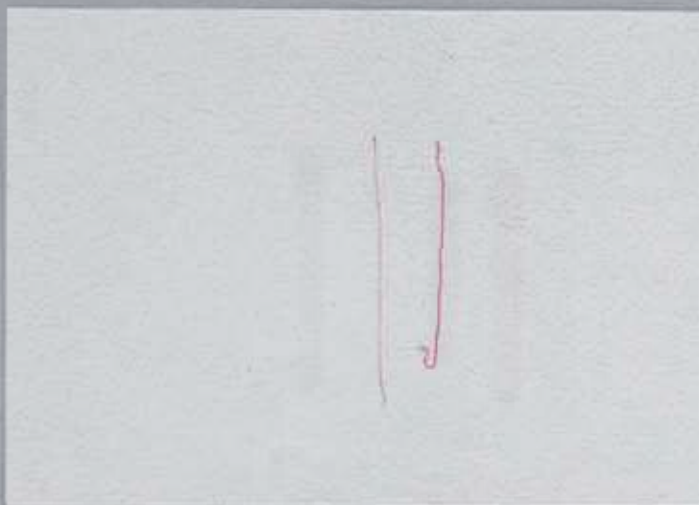


勇気があいてくるヒントが

ここにはあります



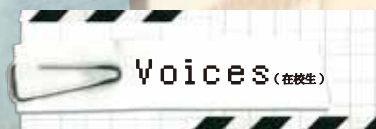
地球を駆け回ろう



昨日アフリカから戻った友達、来月ヨーロッパに行く先輩、

仲間を見ていると、世界がとても身近に感じられる。

今しかできないことがある。私も明日、飛び立とう。



国際学部 国際学科2年

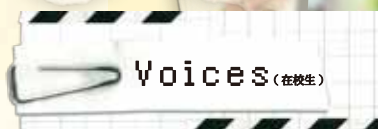
村上 尋音

(広島県立広島観音高等学校出身)



中東欧への理解を深めるために、言語も極めたい。「やりたい」を応援してくれる環境に感謝

小6から英会話を始め、洋楽や洋画の鑑賞も好きで日常的に英語に触れていたのですが、高2の時にチェコ共和国に留学してチェコ語にも親しみ、そこから、チェコ語に単語や文法が似ているロシア語にも興味を持っています。国際理解において語学は重要なツールですから、もっとレベルアップしたいと頑張っています。第二次世界大戦後の中東欧の近代史に関心があるので、中東欧への留學も視野に入れています。先生も親身にアドバイスをしてくださるので心強いです。印象に残っている講義は「国際安全保障論」。仲間とディスカッションを重ねるうちに、自分の考えがすべてでは無いと知り、多角的に物事を見ることの大切さを学びました。国際学部では言語、政治、NPOなど多方面から世界のことについて学べますし、学部を超えた交流もあり、たくさんの人から刺激を受けます。目的を持って頑張る人をサポートしてくれる環境が整っており、オープンキャンパスで感じた「やりたいことができる雰囲気がある」という直感は間違っていないかったと実感する毎日です。



国際学部 国際学科3年

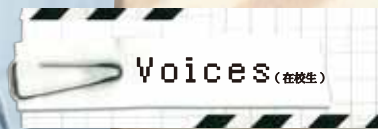
ブルガン ツェツェグジャルガル

(ハンウル第52高等学校出身)



憧れの日本で、大学進学を決意。世界を舞台に活躍できるチカラを身につけるために

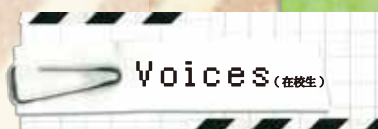
日本はモンゴル人にとって憧れの国。私も子どもの頃からいつか訪れてみたいと夢見ていました。念願叶って4年前に来日し、2年間、広島の日本語学校で学んだ後、国際社会で活躍するための勉強をしたいと思ってこの大学に入学しました。大学では国際ビジネスに関する講義を中心に、語学については、日本語、英語、ロシア語を学んでいます。将来は語学力も生かして多国籍企業に就職し、世界を舞台に働くのが夢です。アルバイトと大学の勉強との両立は大変ですが、「国際社会で活躍できる人になる」という目標があるので頑張れます。何より、同じ目標を持つ仲間や応援してくださる先生方の存在が大きな支えになっています。今しかない時間を大切に過ごし、夢を叶えたいと思います。



国際学部 国際学科3年 **白石 久也**
(香川県立高松北高等学校出身)

受け身ではなく、自分から「やりたい」と動くベンチャー的雰囲気があります

平和や政治に興味があって国際学部に入学したのですが、ビジネス系の講義を受けたことがきっかけで、ビジネスや経営についても学びたいと思うようになりました。現在は、「Future Business Association」というサークルの代表を務めていて、学生目線で観光モデルコースを企画したり、地域の中小企業の取組みを取材してその魅力の発信方法を提案したりするといった活動を行っています。メンバー19人それぞれやりたいことが違うので、企業とのすり合わせや交渉が、代表である僕の役割の一つです。サークル活動を通じて、第一線のビジネスマンと直接お会いして話を聞くこともできますし、先生が僕たちの意向を察知してさりげなく企業との橋渡しをしてくださるなど、やりたいことを実現できる環境に恵まれています。チャレンジ精神旺盛な仲間に出会ったベンチャー的な雰囲気の中で、「自分から動く」という良い意識の連鎖が学内にあります。



国際学部 国際学科4年 **土肥 安希乃**
(金光学園高等学校出身)



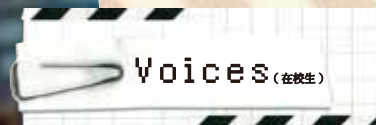
ボランティアやインターンシップに積極的に参加。自ら肌で感じた体験を地域貢献に生かしたい

発展途上国の貧困や格差社会について理解を深めたいと考え、休学してガーナでのボランティア活動に参加しました。日本とはまた違った心の豊かさや助け合いの精神に触れることができ、なかなか中にも学ぶことの多い有意義な毎日でした。東日本大震災が発生した時は、自分も被災地の力になりたいと思い、インターンシップに参加。被災地の企業で働き、地域の人たちと関わり続けるうちに、農業を通じて地域を活性化できないかと考えるように。このような経験を踏まえて「私とあなたと食と農 ファーマーズカフェ&マーケットによる大学発 地域活性化プラン」を大学の友人と協働で企画し、2012年度キャンパスベンチャーグランプリ中国大会で発表したところ、奨励賞をいただきました。経験に基づくアイデアが評価されたことは自信にもつながり、とてもうれしかったです。国際学部には、ボランティアや海外留学など世界に向けてチャレンジする仲間がたくさんいます。バイタリティーあふれる仲間との交流や現地での出会いに影響を受け、自分のやりたいことも見えてきました。



難解なプログラムも、近未来的なロボットも、
毎日の生活に「あったら便利」「ないと困る!」
そんなフレンドリーな存在になるかもしれない。

時代の最先端を突っ走る



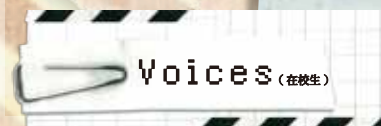
情報科学部 2年 **池田 有希**
(済美高等学校出身)



他大学との連携プログラムや実習を体験して目標が明確に。医用情報の知識と技術を通じて人の役に立ちたい

パソコン機器に興味があって情報科学部を選択しました。入学後、広島市立大学と広島大学、広島工業大学の3大学のそれぞれの専門分野を学ぶ「情報医工学プログラム」(*)の中の「医歯薬保健学プログラム」を受講したところ、自分が所属する大学に通学しながら遠隔講義システムで他大学の講義を受けることができるなど、学びの幅がとても広がりました。電子カルテなどを中心に、情報通信技術が医療現場で重要な役割を果たしていることを知り、それらのサポート業務を通じて人の役に立ちたいという具体的な目標が見えてきました。現在は、医療現場で役立つ情報通信技術が学べる医用情報科学科を選択し、将来は医療現場で活躍したいと考えています。

(※)「情報医工学プログラム」は、平成25年度から広島国際大学を加えた4大学の連携により、「臨床情報医工学プログラム」として開設しています。詳細は94ページをご覧ください。

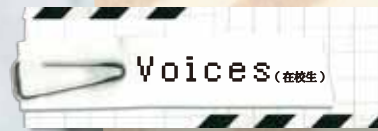


情報科学部 知能工学科3年 **酒井 達弘**
(広島県立安西高等学校出身)



早期卒業制度のおかげで、ひと足早く卒業研究に没頭。地道な努力も好きだから楽しめる

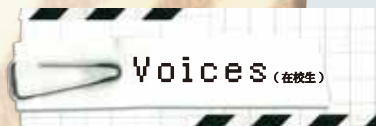
コンピュータやインターネット、SNSに興味があって知能工学科を選択しました。早期卒業候補生に認定されたため、現在3年生でありながら希望の研究室に所属することができ、4年生の先輩方と一緒に卒業研究に取り組んでいます。研究テーマは、今世界で何が起きているのかをツイッターから読み取ること。世界中でつぶやかれているツイッターの言葉が現実世界を映し出しているのではないかという仮説を基に、つぶやかれている言葉を抽出して世界の現状を分析しています。上級生ばかりなので最初は緊張しましたが、同じ目標に向かって研究にいきな仲間として切磋琢磨し、形のないものを手探りで追究していく過程を楽しんでいます。早期卒業のためには成績などの条件が必要ですが、卒業のために必死で勉強したというよりは、好きな分野に夢中になっていたらいつの間にか知識が身についたというのが実感です。興味と目的意識を持って主体的に学ぶことで、人は大きく成長できるのではないかと思います。



情報科学部 情報工学科4年 **村上 哲哉**
(島根県立益田高等学校出身)

いろんな分野を基礎から学べる環境。災害時にも役立つネットワークを構築して社会に貢献したい

進路を決める際、理系志望で、情報通信技術は高度情報化社会で役立つだろうという将来性を考慮して情報科学部を受験しました。入学当初は、プログラミングの講義が理解できず少しつまずいてしまいましたが、1年次を経て、基礎が理解できるようになるにつれて、楽しくなってきました。情報科学部では、幅広く基礎を学んだ上で2年次に学科を決めることができますので、学びながら興味のある分野を見つけることができます。僕の場合は、いろんな分野を学んでいくうちにネットワークに興味がわきました。現在は、アドホックネットワークを研究しています。これは無線機器だけで構築するネットワークで、震災などで基地局が破壊された状況でも臨時的な通信サービスを安定して構築できるようになれば、人々の安心や安全にも貢献できるのではないかと考えています。



情報科学部 システム工学科4年 **千秋 輝**
(福井県立敦賀高等学校出身)



福祉の分野で活躍できるロボットを開発し、生まれ育った地域と両親に恩返ししたい

最初はロボットのハード部分に興味があったのですが、コンピュータのハードウェアやソフトウェアについて学ぶうちにロボットが動く仕組みにも興味が出てきて、システム設計やプログラミングについてもっと研究したいと考えようになりました。卒業後は大学院に進学して研究を進め、将来的には地元に戻って、福祉の分野で活躍できるロボットを開発するのが夢です。生まれ育った地域に恩返ししたいという志、自由に学ばせてくれている両親への親孝行という思いもあります。一方で、自分が学んだことを後世に伝えていくことにも興味があり、教員免許も取得する予定です。もしもいつか教壇に立つことになれば、高校の恩師のような素晴らしい先生になりたいです。「世の中の役に立ちたい」という気持ちを大切に、進むべき道を自ら切り開いていきたいと思っています。高校生の皆さんも、今のうちに将来に関する情報をしっかり得るように努力し、たくさんの選択肢の中から広い視野で、納得のいく進路を見つけてください。

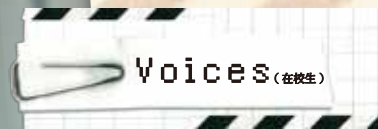


アトリエにこもり、黙々と創造するスロイックな時間。

ふと手を止め、伸びをして、扉を開けて外に出てみると、

通路で深呼吸していた友達が、私を振り返ってニコリほほ笑んだ。

夢中な時間、ほっとする瞬間

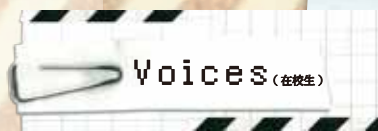


芸術学部 美術学科(日本画)3年

櫻井 あすみ
(東京都立小石川高等学校出身)

少し回り道だったけど、好きな絵を通じて思いが伝わる喜びをかみしめ、満たされた毎日

昔から絵を描くのが好きでしたが、高校卒業後に進学した大学は芸術関係ではなく、卒業後も、一般企業に就職しました。その後、自分が本当にやりたいことは何なのかを考えたとき、「もう一度、きちんと絵を学びたい」という気持ちがわいてきたのが、あらためて芸術関係の道を志したきっかけです。社会人を経て入学した私にとって、年下の学生さんたちの中に入っていくことに不安もありましたが、芸術学部の年齢層は意外と幅広く、上級生や大学院生とも交流する機会を自分から積極的につくることで、いろんな世代の仲間から刺激を受けながら過ごしています。昨年、知人が営むカフェで個展を開きました。まだまだ未熟ですが、見てくださった方に思いが伝わったことがとてもうれしく、励みになりました。回り道をしましたが、好きな絵を描けるという満ち足りた毎日に、自分を信じて前に進んで良かったと実感しています。



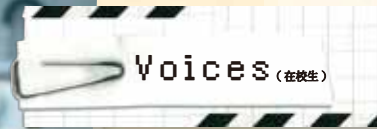
芸術学部 デザイン工芸学科3年

石井 智弥
(広島県立広島観音高等学校出身)



先輩も後輩も一つになった大学祭はかけがえのない思い出。今は「シンプルで僕らしい」表現を模索中

モノづくりに興味があった僕に、高校の先生が広島市立大学の芸術学部を勧めてくれたのが受験のきっかけでした。1年次は造形表現のための基礎を幅広い視点から学び、2年次からは専門分野に分かれて実技や造形に取り組んでいます。僕の所属する立体造形分野では、毎年2年生と3年生が協力して、大学祭に向けて「3Dカフェ」を企画、運営しています。昨年は「白い植木園」をテーマに掲げ、夏休みから約1カ月をかけて、先輩と後輩が一緒になって内装から制作。完成し当日を迎えた時は達成感いっぱいでも感慨深いものがありました。現在取り組んでいる3年次の制作テーマは「椅子」。素材も形も自由なのでいろいろと思案中で、先生からは「好きなものをモチーフにして、簡潔でインパクトがあるものを」と言われました。シンプルかつ僕らしい椅子。難しそうでもあり、楽しみでもあります。将来は、身の回りのモノをデザインするプロダクトデザインや映画の舞台美術などに関わりたと思っています。

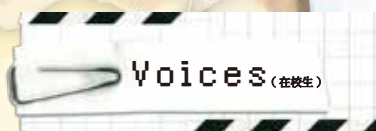


芸術学部 美術学科(油絵)3年 **青原 恒沙子**
(比治山女子高等学校出身)

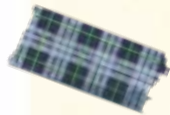


ドイツ留学を機に、自分や世界への探究心が全開に。感動を素直に表現したらどんな絵になるだろう

中学1年生の時に、母親に勧められて油絵を始め、今、大学で油絵を専攻しています。1年次から各専攻に分かれているのですが、基礎的なデッサン力をしっかりと身に付ける授業は時に退屈に感じることもありました。でも人物などのデッサンを積み重ねていくうちに、自分の表現方法が広がったように感じます。このたび、ドイツのハノーバー専科大学へ留学が決まったため、今は語学を猛勉強中。留学を意識するようになってから、自分を見つめ直す機会が増えたのですが、そんな中、ドイツについての知識だけでなく、自分自身を意外と知らないことに気付きました。これをきっかけに、自分自身を知るためにも世界のことを知りたいという気持ちが芽生え、哲学や美術史などこれまで興味がなかった分野への探究心が開花しました。留学生活では予測がつかない出来事に遭遇するでしょうが、一つ一つが貴重な経験になるはず。広い世界を見て、素直に感じた驚きや感動を表現できるように、大きく成長して帰ってきたいと思います。



芸術学部 美術学科(彫刻)3年 **河田 百代**
(岡山県立総社南高等学校)



三次元へのチャレンジが彫刻の面白さ。オーソドックスな中にもオリジナリティーを大切に

高校で美術コースを専攻していて高2から彫刻を始めたのですが、絵を描くのとは違う新鮮さがありました。二次元という平面から三次元という立体へのチャレンジに彫刻の面白みを感じました。大学入学後は、人体や動物をモデルにした基礎的な形態を学んできたのですが、3年次では自分で素材やテーマを決め、自主課題に沿って制作します。銅、石、木など素材選び一つとっても悩みが尽きないのですが、それが楽しさでもあります。扱ったことのない新しい素材やツールに興味があり、今回は樹脂や粘土等を使ってミクストメディア(異種素材の組み合わせ)の制作をしようと思っています。基本に忠実に、オーソドックスな中にもオリジナリティーを感じられるような表現を目指しています。



パワーアップ！

同じ夢を追う仲間と励まし合い、
違う夢に向かう仲間に刺激を受け、
エネルギーに満ちたキャンパスで、
未来へのチカラをチャージしよう。



国際平和文化都市の「知」の拠点

広島市は「国際平和文化都市」として

国際的にも歴史的にも特別の役割を担った都市です。

その広島市が「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」として

1994年に設置した公立大学、それが広島市立大学です。

国際学部、情報科学部、芸術学部、そして広島平和研究所という

特色ある3学部1研究所構成の本学は

国際平和文化都市の「知」の拠点、地域と共生し、

市民の誇りとなる大学を目指し、教育・研究を行っています。

2013年4月、本学は国際交流推進センターを開設いたしました。

グローバルに活躍できる人材の育成に向けて、これまで以上に取り組んでいきます。

広島の地で国際学、情報科学、芸術学、平和学を学び

世界と地域で活躍する未来を志す皆さんの入学を待っています。



広島市立大学長
青木 信之
AOKI Nobuyuki

建学の基本理念

科学と芸術を軸に
世界平和と地域に貢献する
国際的な大学

広島市立大学が基本理念として掲げた「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」という言葉には、科学・文化の発展と世界平和を願う広島市の意志と、公立大学としての地域貢献への期待が込められています。そうした本学の使命は、学術の中心として、深く専門の学芸を教授研究し、次代を担う感性和創造力の豊かな人材を養成するとともに、優れた教育研究の成果を地域に還元し、もって文化の向上と社会の発展に寄与することにあります。

国際平和文化都市を都市像とする広島市に設置された本学は、国際学部、情報科学部、芸術学部の3学部、そしてその上に大学院博士前期・後期課程として、国際学研究科、情報科学研究科、芸術学研究科を有する総合大学です。また世界平和と人類の幸福を実現するための研究や提言を行うことを目的とした広島平和研究所を附置研究所として設置しています。

広島市立大学は、特色のある独自の教育研究活動を通じて、世界と地域が求める新しい時代の要請に応え、本学の目標である「国際平和文化都市の『知』の拠点―地域と共生し、市民の誇りとなる大学―」を築き上げていきたいと念じています。

Admission Policy

アドミッション・ポリシー

広島市立大学は、次のような人の入学を求めています。

- 人間性豊かで、向学心の旺盛な人
- 知的好奇心と探究心を持ち、知の創造と活用に意欲のある人
- 世界平和と地域・国際社会の発展に積極的に貢献したい人

学部構成図

国際学部

International Studies

●国際学科

- ・国際政治・平和プログラム
- ・公共政策・NPOプログラム
- ・多文化共生プログラム
- ・言語・コミュニケーションプログラム
- ・国際ビジネスプログラム

大学院

◎国際学研究科

- ・国際学専攻（博士前期課程）
- ・国際学専攻（博士後期課程）

情報科学部

Information Sciences

●情報工学科

- ・コンピュータコース
- ・ネットワークコース

●知能工学科

- ・知能ソフトウェアコース
- ・知能メディアコース

●システム工学科

- ・制御・メカトロニクスコース
- ・通信・インタフェースコース

●医用情報科学科

- ・医用情報コース
- ・光・電子計測コース

大学院

◎情報科学研究科

- ・情報工学専攻（博士前期課程）
- ・知能工学専攻（博士前期課程）
- ・システム工学専攻（博士前期課程）
- ・創造科学専攻（博士前期課程）
- ・情報科学専攻（博士後期課程）

芸術学部

Arts

●美術学科

- ・日本画専攻
- ・油絵専攻
- ・彫刻専攻

●デザイン工芸学科

- ・現代表現領域 現代表現
- ・デザイン工芸領域
視覚造形／立体造形／メディア造形／金属造形／染織造形／漆造形

大学院

◎芸術学研究科

- ・造形芸術専攻（博士前期課程）
- ・総合造形芸術専攻（博士後期課程）

全学共通系科目

学部を超えた共通科目の学習で、知識・感性・人間性を伸ばす

本学では、学部の専門的な学習に加えて、「総合共通科目」「一般情報処理科目」「保健体育科目」の3分野で構成された全学共通系科目を設置。各専門分野をはじめ、人間と文化、社会、科学との関わりや創造と表現、コンピュータリテラシーなどを学び、社会人に求められる理解力・判断力・表現力を総合的に身につけていきます。

区 分		科 目			
全学共通系科目	総合共通科目	総合科目	地球環境論 創作と人間 心の健康・身体の健康	メディアと社会 情報社会論 情報と企業	NPO 論 広島の産業と技術
		広島・平和科目	ひろしま論 平和と人権A（ヒロシマと国際平和） 平和と人権B（現代世界と人権） 広島からの平和学：実践の方法 平和インターンシップ		
		共通科目 A （人間と社会）	哲学 A・B 世界の宗教 心理学 歴史学 現代史 A・B 世界の文学 法学（日本国憲法）	政治学 経済学 社会学 文化人類学 自然人類学 経営学	
		共通科目 B （数理と自然）	数学概論 物理学概論 基礎物理学 化学概論 基礎化学	生物学概論 基礎生化学 情報科学概論 物理・化学実験	
		共通科目 C （芸術）	デッサン概論 油絵入門 日本画入門 立体造形概論	プレゼンテーション技法概説 デザイン工芸概論 コンピュータ・アート	
		基礎・教養演習	基礎演習	教養演習	
		キャリア形成・実践科目	キャリアデザイン キャリアサポートベーシック	国際交流演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	
		一般情報処理科目	一般情報処理 A・B		
		保健体育科目	健康科学	体育実技Ⅰ・Ⅱ	

【ユニークな科目】

≫ ひろしま論	（1・2年生対象 2単位）
広島市の歴史、行政、経済、産業、文化などをひとりでその特色を知り、地域社会への関心を深め、地域社会の問題解決と将来の繁栄を思考できる幅広い見識を持った人材を育てることを目的とした講義です。また、国際平和文化都市広島市の原点である被爆体験及び広島からの平和の取組みについて学びます。	
≫ 平和と人権A(ヒロシマと国際平和)	（1・2年生対象 2単位）
平和と人権の問題の中で、「平和」に焦点を当て、現代社会における平和の意義や、それを実現するための課題について探求します。広島における平和の探求は原爆被爆が出発点であり、まず、さまざまな角度から「被爆体験」について考え、平和の考察の土台とします。広島平和研究所研究員や学外の講師による講義やビデオを使った学習も行います。	
≫ メディアと社会	（1・2年生対象 2単位）
コンピュータやネットワーク環境の急速な進展につれ、これまでのメディアに対する概念や倫理観なども急速に変化しています。メディアの歴史を振り返り、その変化がイメージ形成や社会にもたらした影響について考察します、同時に、ネットワーク社会を安全に利用するリテラシー教育も行います。	
≫ 情報と企業	（1・2年生対象 2単位）
ICT(情報通信技術)を中心に、各企業の取組みを通じて、実社会の状況を学ぶことが目的です。この科目は、慶應義塾大学、京都大学、キャンパスプラザ京都と本学の4拠点をネットワークで結び、遠隔講義の形式で参加します。広島では聴講が難しい、国内外で活躍中の方々に講義をしていただき、その場で質疑応答もできる講義です。	
≫ 創作と人間	（1・2年生対象 2単位）
美的価値観を持った客観的対象を創作する人間活動やそこから生み出されるものを「芸術」と言います。この科目は、絵画・彫刻・工芸・デザイン等の各領域で、優れた技術と豊富な経験を持つ講師(芸術学部教授陣ほか)による創作体験と作品の紹介を通して創作への姿勢を示し、多様な芸術観に触れることで人間的な創作について考察します。	
≫ 地球環境論	（1・2年生対象 2単位）
地球環境問題は、地上の生命のすべてに取り返しのできない害を与えようとしています。その原因は人間の産業経済活動であることは言うまでもありません。自然のメカニズムを理解し、地球環境を守ることを考えた後、地球環境問題と自分たちの生活との関連を理解し、人間生活と環境が調和する社会の可能性を探ります。	

外国語系科目・資格取得関係科目

地球社会に生きる国際人に必要な語学力の習得

最新の設備や機器を備えた語学センターや外国人教員による直接の指導、多彩な教材など、ハード・ソフトの両面から外国語の学習環境を用意。読むこと、書くこと、話すこと、聞くこと、考えることという総合的で実践的な語学力を身につけ、21世紀の国際人として活躍できる力を養います。

外国語系科目		
CALL英語集中Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	ハンガールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	
英語応用演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	アラビア語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	
科学英語演習Ⅰ・Ⅱ	ロシア語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	
ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	イタリア語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	
フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	スペイン語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	
中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	

●徹底した訓練を行う「CALL英語集中」

本学では、コンピュータ利用による英語訓練授業「CALL英語集中」により、英語力の養成を図っています。この授業では、語学センターや情報処理センターのコンピュータを使って、1年次は英語のリスニング、リーディング、文法を集中的に学習。2年次はそれらに加えて、スピーキングやライティングで、自在に使える英語表現を徹底的に身につけます。授業は、指定された約2カ月間に自分の都合やペースに合わせて学習を行うもので、学習の開始前と終了後にTOEIC IPテストを受験。国際社会に不可欠な英語力を確実に高めていきます。

●能力別少人数の「英語応用演習」

「CALL英語集中」とは別に、1クラス15人という少人数授業「英語応用演習」を開設。ここではスピーキングとライティングの技能を集中して鍛えるための授業を行います。このクラスは能力別の編成を行い、各クラスのレベルに適したシラバスとテキストを使って、きめ細やかな指導を行います。

また、本学では、教育職員免許状受領資格や学芸員資格を取得するための科目を開設しています。

(取得可能な資格、開設科目は以下のとおりです。)

取得可能な資格

国際学部	●中学校・高等学校教諭一種免許状(英語)	●博物館、美術館などの学芸員
情報科学部	●高等学校教諭一種免許状(数学、情報)	●博物館、美術館などの学芸員
芸術学部	●中学校・高等学校教諭一種免許状(美術)	●博物館、美術館などの学芸員
	●高等学校教諭一種免許状(工芸)	

区 分	科 目		
教育職員免許状 受領資格取得 関係科目 (教職に関する科目)	教師論	教科教育法(情報)Ⅰ・Ⅱ	教育実習Ⅰ・Ⅱ
	教育原理	教科教育法(美術)A・BⅠ・BⅡ	教職実践演習(中等)A・B・C
	教育心理学	教科教育法(工芸)Ⅰ・Ⅱ	学校インターンシップ
	教育経営学	道徳教育論	教職特講
	人権教育論	教育課程論	
	教育方法・技術論	特別活動論	
	教科教育法(英語)A・BⅠ・BⅡ	生徒・進路指導論	
	教科教育法(数学)Ⅰ・Ⅱ	教育相談論	
学芸員資格取得 関係科目	生涯学習概論	博物館資料論	博物館教育論
	博物館概論	博物館資料保存論	博物館情報・メディア論
	博物館経営論	博物館展示論	博物館実習

国際交流

広島市立大学は、建学の精神や、広島ならではのメッセージを世界に発信できる特別な都市であるという背景から、国際的な大学となることを強く期待されています。このため、大学の国際化をより一層推進する目的で、2013年4月、国際交流推進センターを設立し、専任教職員を配置することにより、学生の海外留学派遣及び留学生受け入れのための企画・実施等を全学で一元化し運営する体制を整えました。今後は、さらに各種国際交流プログラムを開発し、学生の語学や専門知識・技能の習得はもとより、異文化環境の中で活躍できるグローバル人材を輩出していく重要な牽引役を担っていきます。

●海外学術交流協定大学等への学生派遣

本学では、国際交流を積極的に行っています。現在、ハノーバー専科大学(ドイツ)、アラヌス大学(ドイツ)、ベルリン・バイゼンゼー芸術大学(ドイツ)、ハワイ大学マノア校(アメリカ)、オルレアン大学(フランス)、レンヌ第2大学(フランス)、西京大学校(韓国)、梨花女子大学校(韓国)、西南大学(中国)、国際関係学院(中国)、上海大学(中国)、国連平和大学(コスタリカ)等と協定を結び、交流・学生交換を推進しています。派遣留学は、本学に在籍したまま、半年あるいは1年間留学するもので、派遣先の大学で修得した単位は、一定の条件のもとで本学の単位に認定されます。

●海外からの留学生の積極的な受け入れ

国際的な大学を目指している本学では、建学の基本理念である国際的な大学を実現するために、また、国際レベルでの教育研究の交流を緊密にするために、外国人特別選抜制度を設けて、海外からの留学生、特にアジアからの留学生の受け入れに積極的に取り組んでいます。平成24年度の実績では、受け入れ留学生数は75名、うち海外学術交流協定大学からの交換留学生は10名で、公立大学の中でも、国際交流が盛んな大学です。そして、本学で受け入れた留学生の学習や日本での生活がスムーズに進むように、日本語や日本の事情を学ぶ科目を充実させるとともに、奨学金の紹介など、さまざまなサポートを行っています。

●海外語学研修参加による単位修得

毎年、多数の学生が海外で行われる語学研修に参加しています。また、研修に参加すると、外国語系科目の単位として認定される制度があります。

◎海外語学研修補助事業

学生が海外の大学又は研修機関で語学研修を受ける場合に旅費、研修費用等を補助します。補助金交付に当たっては、2年生以上の学生を対象とし、広く学内から公募します。応募者が多い場合には、本学での成績や面接等に基づいて選考します。



国際社会で活躍できるグローバル人材教育

世界的な景気低迷、ヨーロッパにおける債務危機、サブサハラ・アフリカにおける貧困、難民、紛争の問題、中東や極東アジアにおける国際的な緊張関係、自然環境破壊、地球温暖化の問題、日本における少子高齢化の深刻化や地方経済の低落など、現代社会は複雑な問題を抱えており、その解決には単一の学問領域からでは難しく、領域を超えた学際的なアプローチを必要としています。

言語能力を身につけて世界の人々とコミュニケーションを図ること、

経済活動の主力である企業の国際ビジネス活動を学ぶこと、

国際政治の歴史を辿り現状を理解すること、

広く公共的な観点から様々な政策効果に加え

ボランティアなどNPO活動による社会貢献も学ぶこと、

世界にある多くの文化を理解し共生の道を探ること、

多面的なアプローチから世界平和を実現するために努力すること、

国際学部では、国際社会で活躍できるグローバル人材教育を目指しています。



国際学部長

二村 英夫

FUTAMURA Hideo



国際社会で活躍していく語学は重要なツールだから、必ず上達しないといけない。





国を飛び越えて馬に十回在中間した。そんな時彼らは、中を甲斐なく、やりたことを見てきた。





今この教室にいるみんなはGPSを1台1台に、数年後、世界を回るいろんな国が光るかな。



見つめる先は国際社会、自由なアプローチで豊かな人間性を培う

求める人物像 Admission Policy

身につけた外国語を生かしたい、ビジネスの現場で活躍したい、
日本や世界、各地域の問題に強い関心があるなど、
21世紀社会を担う意欲を持った人を歓迎します。

幅広い分野の基礎的な知識を理解し、
さらに考えを深めて自らのことばで表現できる人

日本語と外国語の能力を磨き、コミュニケーション能力を高めて、
さまざまな国や地域の人々と交流したい人

国際社会や地域社会のさまざまな課題に関心を持ち、
その解決に真摯に取り組める人

教育方針 Educational Concept

一人ひとりの興味や卒業後の進路を見据えて選択した学びを、
より効率的に進め、深めていくために、
国際学部では、以下のコンセプトを掲げています。

「学際性」の実現に向けて

既存の枠にとらわれず、私たちの周りや世界各地の異質で多様なものを、
多面的・複眼的に関連づけて理解できる学際的なカリキュラムを設けています。

5つのプログラムの可能性

学生の関心や目標に応じた5つのプログラムを用意し、それらを組み合わせて
学習することができる多様で柔軟なカリキュラムを編成しています。

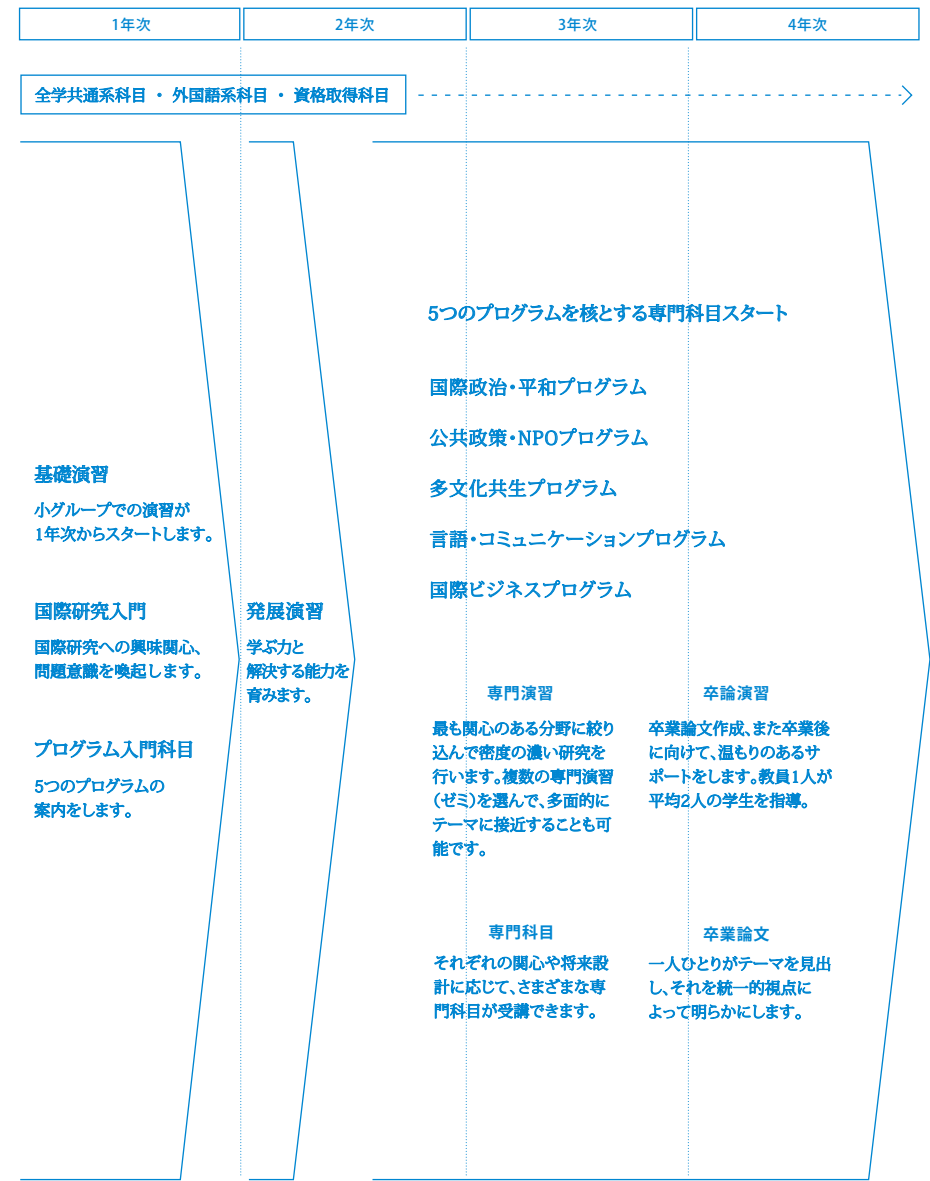
少人数クラス・ゼミの魅力

学生同士はもちろん、学生と教員がしっかりと議論ができるように、
演習科目や各授業クラスを少人数で編成しています。

ていねいで適切なサポート体制

通常の授業だけではなく、課外活動を含めて、豊かな学生生活と
学生一人ひとりの目標を実現できるよう、きめ細やかなサポート体制を整えています。

年次チャート、学部共通科目



5つのプログラム

5つのプログラムをベースにした国際学部の教育プラン

21世紀の国際社会で求められる人材を育成するために、国際学部では6つの目標を設けています。それは、「幅広い教養を養うこと」「教養科目と専門科目とを連携させ学際的に学び知識を身につけること」「国際的・学際的な視野を持って多様な問題を解決できる能力を高めること」「高い外国語能力を身につけること」「問題解決のための行動力を身につけること」「一人ひとりの関心、興味、ニーズに応じ、専門的な研究へ発展させられること」の6項目です。この目標を実現できるように、5つのプログラムを中心にした教育カリキュラムを用意しています。

5つの領域から21世紀をとらえる

本学部では、「国際政治・平和」「公共政策・NPO」「多文化共生」「言語・コミュニケーション」「国際ビジネス」と、21世紀を担う人材に求められている国際的・地域的な課題を解決に導くための能力を養う5つのプログラムがあります。関心のある分野を深く学ぶ、あるいは複数のプログラムにまたがって幅広く学ぶなど、柔軟な学習が可能です。

複数プログラムの履修が可能

各自の関心や将来の目標に応じて複数のプログラムを履修することが可能です。各プログラムの科目は、互いに関連し合っているので、複数のプログラムを組み合わせると履修することで、理解が深まり、より高度な知識の修得が期待されます。また、より広く深く学ぶことによって、専門性プラスアルファの視点・考え方を身につけることができます。

プログラム履修の認定

1プログラムにつき、最低36単位を修得することによって、そのプログラムで提供された専門科目を学修したことの認定が与えられます。これを領域認定と呼びます。国際学部の学生は、複数のプログラムについて領域認定を受けることが可能です。国際学部で学ぶ学際性の背景となる専門性も兼ね備えていることを示す領域認定は、就職時等において高評価につながるものと考えられます。

【国際政治・平和プログラム】

地球規模の問題を理解し、その解決方法を探る

現代の国際社会には、紛争、テロ、難民、開発、環境などのさまざまな地球規模の課題があります。これらの課題を理解し、解決方法を見出すための鍵となる国際関係の理論や歴史、そして平和研究の方法や実践について一緒に学びましょう。

●科目群

国際関係論	国際政治学	国際人権法	アメリカ政治論
国際関係史入門	比較政治学	紛争解決論	ヨーロッパ政治論
国際法	民族国家論	国際機構論	ロシア研究
国際協力論	開発政治論	国際関係史	東南アジア研究
国際社会論	平和研究入門	日本政治論	
国際安全保障論	平和研究	東北アジア政治論	

科目紹介

比較政治学

さまざまな国の政治制度を比較することにより、国際政治、ひいては現在の世界が見えてきます。例えば民主主義の概念。国によって憲法の成り立ちも異なれば、とらえ方や権利の理解もさまざまです。各国の歴史、文化、政治などの背景を踏まえながら比較し、また日本における民主主義についても考察を深めます。

国際安全保障論

「多くの人が平和を望んでいるにもかかわらず、なぜ戦争は起こるのか」「安定的な安全保障システムは、どのようにすれば実現可能なのか」「どのようにすれば平和を実現出来るのか」といった問題を国際関係論や外交史の視点から分析します。

国際協力論

国際協力とは、なぜ、何を、誰が行うものなのでしょうか。そこにどのような問題があるのでしょうか。それらについて、社会科学という視点から考えていきます。講義は、単なる知識を提供する場としてではなく、メーリングリストなどを利用しながら、議論を重ね、理解を深めることに重点を置いて進めていきます。

ヨーロッパ政治論

第二次世界大戦以降、ヨーロッパ諸国は紆余曲折を経て、独特の政体である欧州連合(EU)を形成しました。欧州信用不安などのニュースを耳にしたことがあると思いますが、そもそも多様なヨーロッパ諸国が、なぜ統合にいたる道を選んだのでしょうか。EUはなにを目指し、そして今、どのような課題に直面しているのかについて、政治的な側面に注目しながら考えていきます。

【公共政策・NPOプログラム】

望ましい社会を創造するために、経済や社会のあり方を知る

望ましい社会を創造するために、人びとの生活の基礎である経済や社会のあり方について学びましょう。私たち、市民、NPO(非営利組織)、政府などの果たす役割や協力し合う仕組みを考えましょう。社会のために働きたい方を歓迎します。

●科目群

公共政策・NPO入門	財政学	現代日本経済論	国際教育論
国際経済学入門	金融論	組織の経済学	アメリカ教育論
ミクロ経済学	現代社会と法	開発と環境	政治と経済
マクロ経済学	比較法制度	スポーツ文化経営論	地域政策論
非営利組織論	経済政策論	健康心理学	
基本統計学	交通論	教育経営学	

科目紹介

開発と環境

「開発と環境」の狭間で現代世界は進むべき方向を模索しています。貧困を緩和し自然環境と調和する発展のために、途上国の地域社会、国際社会、そして私たちに何が求められているのか考えます。また世界共通の課題である「開発と環境の調和」の根本条件として、現代の物質中心の世界観を問い直し、自然の生命を尊重する世界観を紹介し、人間と自然が共生する生き方を考えます。

経済政策論

二人以上の人間が互いに影響を及ぼしながら行動する状況をゲーム的状況と呼びます。例えば学生と教員の関係、友人関係、相性の良くない人との接し方など。このゲーム的状況で人々はどのように行動し、その結果としてどのようなことが起こるのかについて体系的に学ぶとともに、どのような政策が望ましいかについて考えていきます。

非営利組織論

最近話題になることが多いけれど、実態がよく知られていないNPO(非営利組織)。講義では、非営利組織がなぜ社会の中に出現するのか?どんな運営をどんな人たちがしているのか?経済的にどう成り立たせているのか?市民社会は世の中をどう変えようとしているのか?などについて考えます。また、環境、福祉、まちづくり、国際協力などの公共政策と非営利組織の関係についても学びます。

国際教育論

OECDによるPISA調査に見られるように、学力をめぐる国際競争もますます激しくなっています。国際教育論では、グローバルな視点から教育を把握するとともに、世界の国々にや地域の教育について学びます。そして、教育に関する比較文化論的な観点を踏まえながら、持続可能で平和な社会づくりのための教育について考えます。

【多文化共生プログラム】

多様な考え方を持つ人々との共生について考える

世界は新たな発見に満ちた知のフィールドです。

国家・地域・民族・文化の垣根を乗り越え、多様な考え方を持つ人々と「共に生きる」を合言葉に、文化的対話の方法や可能性について理論と実践の両面から学びましょう。

●科目群

多文化共生入門	音楽人類学	社会文化思想史	アメリカ文化論	アフリカ研究
地域研究入門	エスニシティ論	共生の哲学	中国文化論	美術史
テキスト分析法	ジェンダー論	マスメディア論	日本研究	美学
フィールドワーク論	労働と社会	メディア・リテラシー	東アジア研究	
比較文化論	異文化間交渉論	日本文化史	アラブ研究	
比較民族学	文化交流史	イギリス文化論	ラテンアメリカ研究	

科目紹介

エスニシティ論

グローバル化が進む現代において相互理解は不可欠であり、その起点となる“自分たちは何者か”が強く問われています。自分のアイデンティティを追求することは、自己理解であり、他者理解への第一歩。そのために正しい歴史観を学び、自己を通して世界をとらえ、さまざまな角度から情勢を考えていきましょう。

ジェンダー論

「男らしさ」「女らしさ」って何でしょう。この講義は、社会的・文化的につくられた“性差”について、これまでの自分の経験や歴史・映画・美術などを通して意識することから始まります。男女それぞれの立場からも考え、“性差”を時代の流れや文化によって異なるものとしてとらえることによって、多様なものの見方を養っていきます。

共生の哲学

「グローバリゼーション」と呼ばれる動きが進展する中、自分とは異質な他者と共に生き、共に社会を築くことが差し迫った課題となっています。私たちが自らの可能性を見通すためにはまず、そもそも「共生」とは何か、と問うべきでしょう。共に生きること自体を哲学的に問うことによって、他人の語る「共生」に踊らされることなく、自分自身が他者と共に生きていく道筋を探っていきましょう。

アフリカ研究

アフリカについての皆さんのイメージは、「野生動物の楽園」それとも「飢餓と貧困、紛争の多発地帯」でしょうか。どちらも日本で広く流布しているものです。ところが、こうしたイメージはアフリカを私たちから遠ざけていきます。実はそのイメージは、私たちのものの見方の偏りから生み出されているものです。同じ時代、同じ世界に生きているアフリカの人々の生活を共に感じていきましょう。

【言語・コミュニケーションプログラム】

コミュニケーション上の諸問題を学び、外国語の実践能力を高める

言語(日本語・外国語)を基本とするコミュニケーション上の問題(社会問題、外国語教育・外国語政策、言語比較、異文化理解など)について学ぶと同時に、外国語の実践能力の養成を重点的に行います。外国語学習に関心のある方を歓迎します。

●科目群

言語・コミュニケーション研究入門	言語比較論	フランスの文学と文化	英米文学特講
社会言語論	通訳技法論	イギリスの文学と文化	英文構成法
応用言語論	コミュニケーション技法論	英語学概論	英語コミュニケーション
日本語学・日本語教育学	Cross-Cultural Language and Communication	英文法論	英語聴解法
翻訳論		英米文学概論	時事英語

科目紹介

言語比較論

外国語の習得には母語(日本語)についての理解が不可欠です。日本語はどのような言語なのか、日本の社会・文化とどう関わっているのか……。中国から漢字が日本にどのように伝わり、変化し、日本語化してきたかを中国と日本の歴史などを関連させながら追究し、これから日本語がどのように発展していくかを考察していきます。

社会言語論

例えば日本語においても、広島、博多、沖縄など地域によって、表現やイントネーションが異なります。アメリカ英語においても男女でニュアンスが違ってくる場合があります。ビデオ等で実際の違いを聞き比べながら、あるいは各地域の言葉をリサーチ・比較し、ディスカッションしながら私たちの言葉がどのように構築されているのか学んでいきます。

フランスの文学と文化

フランスの文学と文化は、中世以来、ヨーロッパ文明の中心であり、日本の近代文学にも大きな影響を及ぼしました。文学や映像文化まで含めたフランス文化、さらに社会や歴史についての基礎的知識を身につけるための科目です。文学を中心に広くフランス文化全般に触れることによって、価値観の多様化が進む現代社会において、均衡のとれた人間性を養うことについて考えていきます。

英米文学概論

誰かに自分の思いを伝えるためには、心を動かす言葉が必要。文学作品は心に響く言葉の宝庫。授業では、英米文学史に残る名作についての知識を得るだけでなく、文学作品を体で感じるために、リズムのよい詩を声に出して読んだり、シェイクスピアの劇の一コマを演じたりします。遠い昔の作品が驚くほどの新鮮さで迫ってきます。詩や小説や劇を通じてコミュニケーション力や表現力を身につけましょう。

【国際ビジネスプログラム】

経営学や経済学上の諸問題を学際的に思考する

これまでの経営学や経済学の領域でとらえられてきた問題を、
国内的・国際的な幅広い視野と、文化的・社会的・政治的環境との相互関係においてとらえ、
問題発生の予防にもつながる総合的な解決ができる問題解決型の学生を育成します。

●科目群

国際ビジネス入門	財務管理論	経営組織論	人的資源管理論
国際経営論	簿記論	企業行動論	テクノロジーマネジメント
マーケティング論	会計学	国際金融論	
経営史	公会計論	国際貿易論	
多国籍企業論	国際会計論	国際ビジネス法務	

科目紹介

多国籍企業論

私たちが身近に接している多くの企業が今日では自国だけでなく、他国に生産拠点をもち多国籍企業として活動しています。
多国籍企業を取り巻いている文化・政治・経済環境などの影響を踏まえながら、外国に工場を設置するメリット、文化や習慣の違いへの対応、複数国での社会貢献など、単なる国内経営とは異なる経営を考えてみましょう。

国際金融論

経済の自由化、グローバル化が進み、巨額のマネーが国境を越え、ネットワークを通じて取引されています。また円とドル、円とユーロなど通貨同士の交換も活発です。こうした国際金融の仕組みや市場取引にはリスクが伴うこと、またリスクを回避するにはどんな方法があるかを具体例をあげながら一緒に考えていきます。

国際会計論

会計はビジネスの言語といわれます。現在、グローバル化を背景として、各国の文化、政治、経済と密接に結びつくビジネスの言語の中に、国際言語が急速に導入されています。本講義では、会計の国際言語がどのように作られているか、それを各国が導入する際に生じている問題は何かなどについて学びます。また、国際的企業人にとって不可欠な英文財務諸表に関する知識の修得も目指します。

マーケティング論

マーケティングとは、売れるものを作り、販売することです。つまり、販売はマーケティング活動の一部にしかすぎず、いかに売れるものを作るかはマーケティングの本質だと言えます。企業経営におけるマーケティングの役割を踏まえながら、売れる仕組みを作るためのマーケティングの諸概念や戦略について考えてみましょう。

国際理解・少人数教育の重視

国際理解

海外学術交流協定大学との国際交流に加え、国際学部ではより多様な取組みを通じて、国際理解を深めています。例えば、世界中から募った学生と一緒に平和について学び交流を行う「HIROSHIMA and PEACE」(64ページに詳細)、ドミニカ共和国にある広島東洋カープ・アカデミー・オブ・ベースボールへの学生派遣(69ページに詳細)、研究室での海外へのスタディー・ツアーなど、さまざまな機会を提供しています。
また、国際学部では、1年次前期の必修科目である「国際研究入門」をはじめとして、カリキュラムの履修を通じて、多くの国々、地域の言語、文化、政治、経済、ビジネスを学ぶことにより、国際理解を深められるよう工夫をしています。
さらに、国際学部全教員に占める外国人教員、海外の大学院で学位を取得した日本人教員の割合がとて高く、国際学会、国際調査、国際プロジェクト等への参加経験が豊富な教授陣による指導と、そのネットワークを活用した海外研究者による学内での講演などを通じ、国際的な取組みに触れることができます。

少人数教育の重視

1学年100名の定員に対し、約50名の教員を擁する国際学部では、少人数教育を重視しています。
大学では、高校までとは違い、「明白な正解」が必ずしもない中で、学修と研究を進めていく必要があります。それを可能とするための基本的なトレーニングを行うのが、必修科目として開設されている「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」と「発展演習Ⅰ・Ⅱ」です。1クラス10名程度で、1年次、2年次の2年間にわたり、読解力、分析力、記述力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、調査能力を高めるための演習指導を受講することができます。
3年次では専門演習(いわゆる「ゼミ」)、4年次では卒業論文演習が必修となっており、研究室に所属して教員から指導を受け、各自の専門領域に関する学修と研究を行います。約50名の教員の中から、自身の関心に応じて専門演習、卒業論文演習を履修することができ、両演習とも教員1名と数名の学生で構成されることがほとんどです。なお、国際学部では複数の専門演習を選択でき、幅広い興味に応じながら、少人数で深く学ぶことを可能にしています。

Intensive Summer Course HIROSHIMA and PEACE

多様な国の学生と共に英語で平和を研究し、自己を表現する

「ヒロシマと平和」を英語で学び、討論

世界中から学生が広島市立大学に集い、「ヒロシマ」と「平和」を学び語り合う講座が国際学部にあります。それが夏期集中講座 HIROSHIMA and PEACE(以下H&P)です。核について自分の国の教育では知らされていない視点、非核と平和の知識を考察し、そして、被爆者からの証言を聞き平和記念式典にも参列する専門的かつ多彩な講座です。この講座の講義とディスカッションはすべて英語で行われます。

それぞれにとっての「平和」とは？

H&Pでは、毎年10カ国以上の学生が一堂に集い、知的な「楽しさ」を感じながら学びディスカッションをします。そこでは、国際政治、歴史、文学、哲学、異文化コミュニケーション、メディア、環境、紛争解決など幅広い視点からPEACEについて専門的に学びます。さらに、東日本大震災後は、原発の安全性についても取りあげています。ウェルカム・パーティーに始まり、講義の後にカフェで夜遅くまで語り合い、フェアウェル・パーティーなどを通じて、参加者の絆は深くそして強くなります。

留学でも得がたい「国際体験」

平成15年から平成24年までの受講生の国籍(日本を除く)は計44カ国(アメリカ、韓国、イギリス、シンガポール、アラブ首長国連邦、ドイツ、中国、スウェーデン、マレーシア、オーストラリア、タイ、ネパール、ポーランド、フランス、ノルウェー、インドネシア、ガーナ、ウガンダ、スペイン、ハンガリー、ニュージーランド、ベトナム、ポルトガル、リトアニア、ルーマニア、イタリア、デンマーク、クロアチア、キューバ、リビア、スリランカ、オランダ、バングラディシュ、イラン、ロシア、アイルランド、イスラエル、ナイジェリア、イラク、ジンバブエ、フィンランド、インド、パキスタン、フィリピン)です。また、H&Pは、本学の学術交流協定大学であるハワイ大学マノア校の正式科目であり、毎年10人弱の学生が交換留学生として受講します。同時に開講する大学院レベルのH&Pには、大学教授や外交官も受講したことがあります。これまでの世界中の受講生は、ネット上でコミュニティーを作り交流を続けています。過去の受講生はロンドンで開かれた反核集会で「同窓会」を開きました。広島の地で学び、語り合い、そして、平和の意識を共有していく海外研修や留学でも得ることができない貴重な国際体験と言えるでしょう。

Preliminary English Training (PET) Program H&P本番に向けた英語討論能力の強化

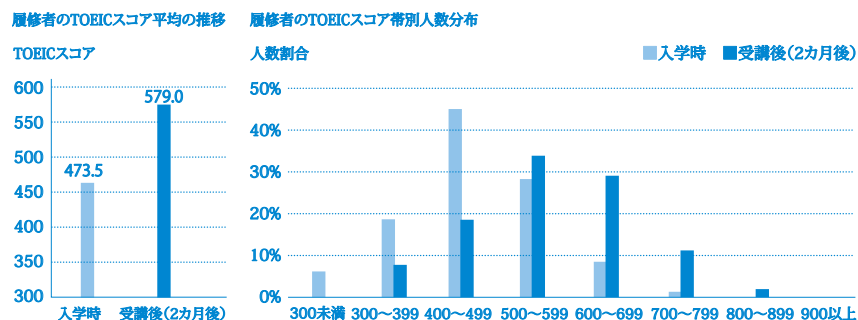
H&Pの国際学部受講生は、H&P本番前に約3カ月間の事前英語研修(PET)プログラムを受講します。このプログラムは、チーム・ティーチングによる徹底した指導で、英語の討論能力、表現力、それに広島や原爆、平和問題について英語で発信できる能力を高めます。また、PET期間中に終日英語演習の研修(English Only Day)を実施し、平和問題に関する調査とその結果発表、討論会、英語によるレクリエーションなどを行っています。PETプログラムの「共通語」は英語のみ、1回の集中研修ながら参加者のH&P参加意欲と連帯意識を高め、本番に向けて確実なスキルアップにつなげます。

CALL英語集中

◎実践的な英語力を鍛える

語学センターや自宅のコンピュータを用い、英語のリスニング、リーディング、文法、語彙を集中的に訓練するeラーニングによる授業です。通常の授業のように教員が週1回授業をするといった形態を取らず、指定された期間中(約2カ月間)、自分の都合のよい時間に自分に合ったペースで学習を行います。学習の開始前と終了後にTOEIC IPテストを受験し、英語力及び学習効果を客観的に測定します。国際社会で活躍していくために必要不可欠な英語力を確実に高めています。

CALLを利用した効率的な学習で確実にTOEICスコアがアップ!



上のグラフは、「CALL英語集中」国際学部1年生履修者のTOEICスコア平均の推移とスコア帯別人数の分布を示したものです。入学時に比べ、受講後のスコアは105.5点アップし、579.0点に伸びています。スコア帯別人数分布についても、受講後は分布がスコアの高い方に移動しており、英語力が大きく底上げされていることがわかります。TOEIC運営委員会発行の『TOEIC テストDATA & ANALYSIS 2010』によると、全国の大学1年生のTOEICスコア平均は419点ですが、国際学部1年生のTOEICスコアは、入学時点ですでに大学1年生の平均を大幅に上回っています。また、全国の大学4年生の平均スコアは509点、企業が新入社員に期待するスコアは445点以上とされていますが、国際学部1年生は前期終了の時点でこれらのスコアを大きく上回る学習成果をあげています。

英語教育がさらに進化

◎徹底した訓練の「CALL英語集中」と能力別少人数の「英語応用演習」

1・2年生対象の英語教育が平成19年4月より大きく変わりました。ネットワークを利用した「CALL英語集中」で、リーディングとリスニングを中心とした英語の訓練をほぼ毎日行うとともに、1クラス平均10名程度という、大学共通教育としては異例の少人数クラス「英語応用演習」で、徹底したスピーキングとライティングの指導を受けます。また「英語応用演習」では、クラスを能力別とし、それぞれのレベルに適したシラバスとテキストできめ細かい指導が行われます。

教員一覧

氏名	専門分野	氏名	専門分野
 教授(学長) 青木信之	英語教育学	 教授 ヴェール・ウルリケ Wöhr, Ulrike	日本文学・現代史 ジェンダー史
 教授 赤星晋作	教育経営学	 准教授 王 英燕	人的資源管理論
 教授 新垣 修 ※	国際関係論	 教授 太田育子	国際法 国際人権法
 准教授 飯島典子	中国近代史 華僑論	 教授(副学部長) 大東和武司	多国籍企業論 国際貿易論
 准教授 池田寛子	イギリス地域研究	 教授 大庭千恵子	民族国家論
 准教授 板谷大世	東南アジア研究 開発政治論	 准教授 柿木伸之	哲学
 教授 井上泰浩	マスメディア 国際コミュニケーション	 准教授 金谷信子	非営利組織論 公共政策
 講師 今江秀和	臨床心理学	 准教授 城多 努	財務管理 公会計
 教授(副学長) 岩井千秋	応用言語論	 教授 金 泰旭	国際経営論
 准教授 岩田一成	日本語学 日本語教育学	 教授 金 米鎬	政治学・国際関係 現代朝鮮半島政治
 教授 宇野昌樹	アラブ研究	 准教授 倉科一希	アメリカ外交史 国際関係史
 准教授 卜部匡司	比較国際教育学	 准教授 ゴーマン、マイケル Gorman, Michael	アメリカ文学

氏名	専門分野	氏名	専門分野
 教授 佐藤深雪	日本文学・日本文化史	 教授(学部長) 二村英夫	金融論 国際金融論
 准教授 潮崎智美	会計学 国際会計論	 准教授 山口光明	健康心理
 講師 シュラトフ、ヤロスラフ Shulatov, Yaroslav	国際関係史(ロシア)	 教授 湯浅正恵	国際社会論
 准教授 城市真理子	日本美術史 東洋美術史	 教授(図書センター長) 横山知幸	翻訳論
 教授 関村 誠	美学・哲学	 准教授 吉江貴文	文化人類学
 教授 曾根幹子	地域スポーツ 生涯スポーツ論	 教授 吉田晴彦	国際関係論
 准教授 高橋広雅	経済政策論	 教授 樂 竹民	言語比較論
 准教授 田川 玄	文化人類学	 講師 李 玲	マーケティング論
 教授 塚田健一	音楽人類学	 教授 ルディムナ、クリスチャン ※ Le Dimna, Christian	フランス文化論
 教授 寺田英子	財政学 交通経済学	 教授 渡辺智恵	通訳技法論
 教授 中島正博	国際開発論 環境・資源管理論		
 准教授 西田竜也	国際安全保障論 国際関係論・国際協力・ 外交史		

※新垣修教授は平成25年8月末に、ルディムナ、クリスチャン教授は平成26年3月末にそれぞれ退職の予定です。

日銀グランプリへの挑戦

日本銀行が全国の大学を対象に実施している「日銀グランプリ」に二村ゼミは、毎年挑戦しています。金融に関する学習をベースにテーマを決めグループで議論し論文にまとめます。決勝に残った場合には、日本銀行の本店で、副総裁を中心とする審査員の前でプレゼンテーションし、質疑応答を経験します。平成21年度は入賞、平成22年度には、首都圏の国立大学・私立大学と競い合い、地方大学として唯一優秀賞を獲得しました。



プロジェクト一覧 Project List

多国籍企業スタディツアー

「多国籍企業の実際から学ぶ」。大東和ゼミでは、平成12年以来毎年8月後半に10日前後の日程で、海外スタディツアーを行っています。最低2カ国は訪問し、日本も含め、少なくとも3カ国の文化・政治・経済の違いなどを多面的・複眼的に観察・理解できるようにしています。ゼミ生以外も参加するなど、他大学ゼミとの合同研修旅行で、毎年早稲田大学など6、7大学のゼミが参加します。平成24年は北から高崎経済大学、専修大学、神奈川大学、山梨大学、富山大学、関西学院大学、九州産業大学、そして本学の8大学合同で行いました。



中国理解プロジェクト

実際に中国語を使い、中国に行ってリアルな中国を知りたい!この要望に応えるために毎年国際学部中国語関連教員(栗・飯島)の主催でスピーチ大会や、中国のスタディツアーを実施しています。スピーチ大会では中国と中国文化に対するアツい思いを語る人も。スタディツアーは観光では味わえない中国の大学生との交流もあります。名所旧跡の探訪もあり、引率教員のマニアックな解説が楽しめます。



地域リノベーションプロジェクト

金泰旭ゼミでは現在、広島市の再活性化の担い手である地域企業の研究を行っています。先行研究によると、地域企業の多くは家族経営を行っていますが、外部の変化に疎いことや資源が限られていることが発展の妨げになっています。そこで、経営者から直接お話を聞き、企業の伝統やこだわりなどを理解した上で広島の再活性化につながる地域企業の可能性を考えていきます。理論面・実践面で学習した上で最終的に書籍の出版に至りました。



地域日本語教室への日本語支援

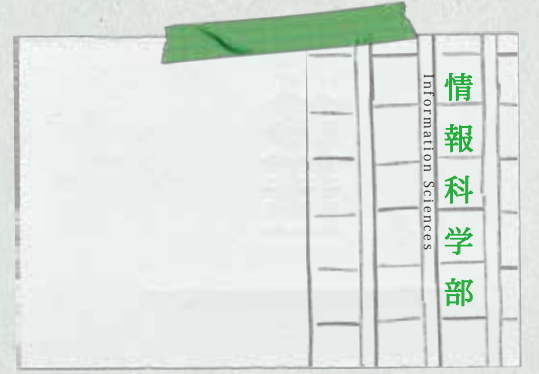
国際学部の学生を中心に沼田公民館で毎週土曜日に行われる日本語教室に参加しています。メンバーは固定せず、さまざまな学生が関わっています。また沼田日本語教室が関わる各種イベントにも参加しています。これまで、アジアフードの模擬店を出したり、子ども会と共同でイベントを実施しました。日本に住んでいる外国人の方々と交流をするのが目的です。



広島東洋カープ企業インターンシップ

中米のドミニカ共和国にあるプロ野球選手の養成センターに半年間(事前研修1カ月、現地研修5カ月)、働きながらさまざまなことを経験することができます。現地の若手選手に日本語を指導したり、センターの各部署の業務改善を提案して実施したり、山羊や牛の世話をしたりなど、充実した日々を過ごすことができます。ラテン文化に浸り、発展途上国の現状を直接見た経験は、学生たちを明るくたくましくしましょう。





情報科学を駆使し世界に貢献しよう！

情報科学無くしては世界が機能しないと言われるようになって長い年月を経っていますが、情報科学は基礎研究の分野でも、またそれらの応用の分野でも益々加速し発展を遂げています。

本学部は、中四国地域で唯一最大の「情報科学」の拠点学部です。

情報科学を勉強するための充実した設備と

優秀な教授陣の的確な指導により、

情報科学分野はもとより、

様々な分野で活躍する力を身につけることができます。

将来の予測が困難な現代、

答えのない問題に対して自分で考え、

答えを見つけ出していくことが大切です。

情報科学を駆使し世界に貢献しましょう。



情報科学部長

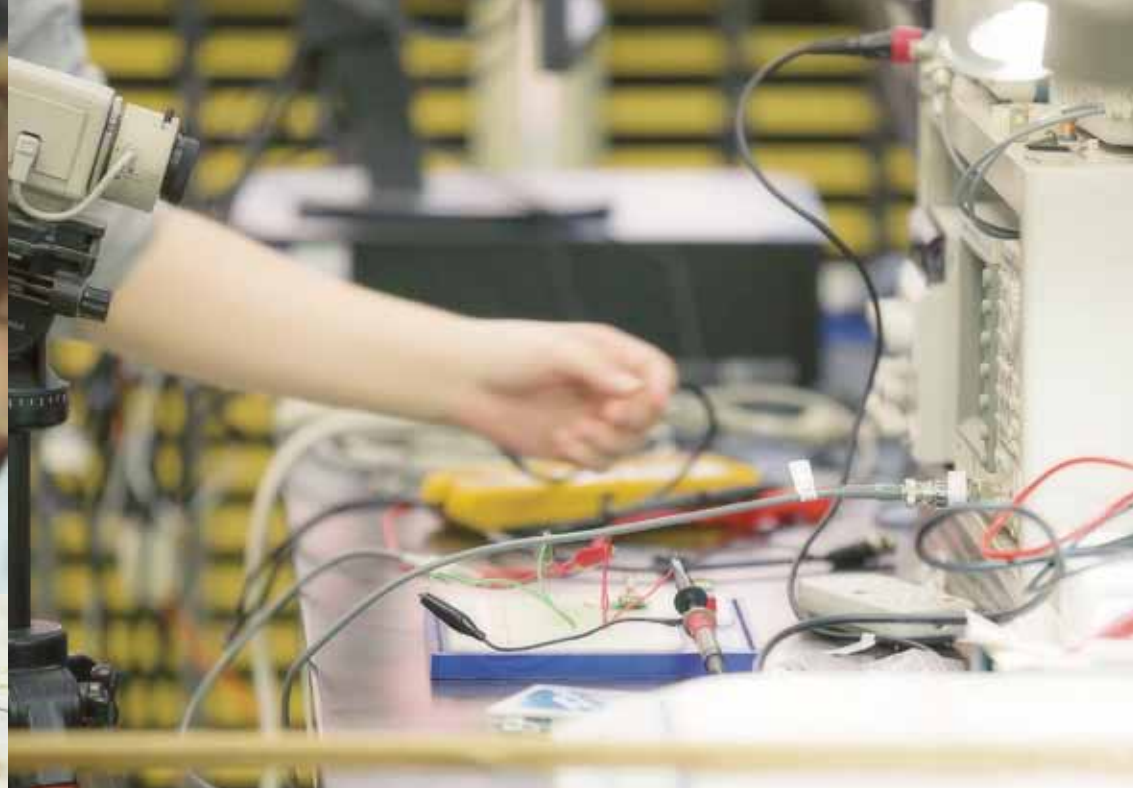
矢野 卓雄

YANO Takuo



プログラミングが苦手だった。今は面白くて仕方ない。いろんな不可能を可能にできる気がするから。





いつも映画で楽しんでいるCG。どんなに大迫力シーンも、密な理論や地道な努力が積み重ね。





一緒に遊んでくれるロボット、家事を助けてくれるロボット、どんなロボットをつくるかな。



高度情報化社会を支える「情報通信技術」の分野をリードする能力を養う

求める人物像 Admission Policy

「情報科学の分野で自分の適性を見つけ、
十分な学力や技術力を身につけて、科学技術の進歩に貢献することを目指す気概がある人」の
入学を期待しています。具体的には、以下のような人を求めています。

情報科学に興味があり、
情報科学をより深く学びたいと考えている人

情報科学の基礎である数学・理科・語学が得意な人

困難な問題に挑戦し、
解決しようとする意欲と熱意を持つ人

教育方針 Educational Concept

高度情報化社会を支える「情報通信技術」(ICT)に関する
研究開発を担う研究者及び専門技術者を養成するため、
以下の教育目標を定めています。

学生が興味関心、適性に基づいて専門分野を選択できる仕組みの提供

入学後、情報科学の基礎知識を修得した後に、学生一人ひとりの興味関心、
適性に基づいて専門分野を適切に選択できる仕組みを提供します。

情報科学に必要な基礎学力の育成

情報科学を専門的に学ぶ上で基礎となる数学、
プログラミング、英語などの学力を十分身につけます。

情報通信技術を活用できる技能の養成

先端的な情報通信技術(ICT)を知的生産の道具として活用できる能力を身につけます。

専門分野に関する体系的な知識の修得

教育内容を厳選、体系化した上で、効果的な専門教育を行います。
これにより、専門分野に関する体系的な知識を修得します。

体験的・総合的学習を重視した教育プログラムの実施

21世紀の知識基盤社会で問題解決ができる人材を育成するため、実験、実習、演習、
口頭発表など体験的・総合的学習を重視した教育プログラムを実施します。

知識や学力の多様化した学生への効果的な教育の実施

知識や学力の多様化した学生への効果的な教育を実施します。
少人数教育を推進するとともに、習熟度別クラス編成、グループ学習などを導入します。

年次チャート、学部共通科目



※ 情報科学部の募集は学部一括で行い、学科への配属は2年次開始時に行います。

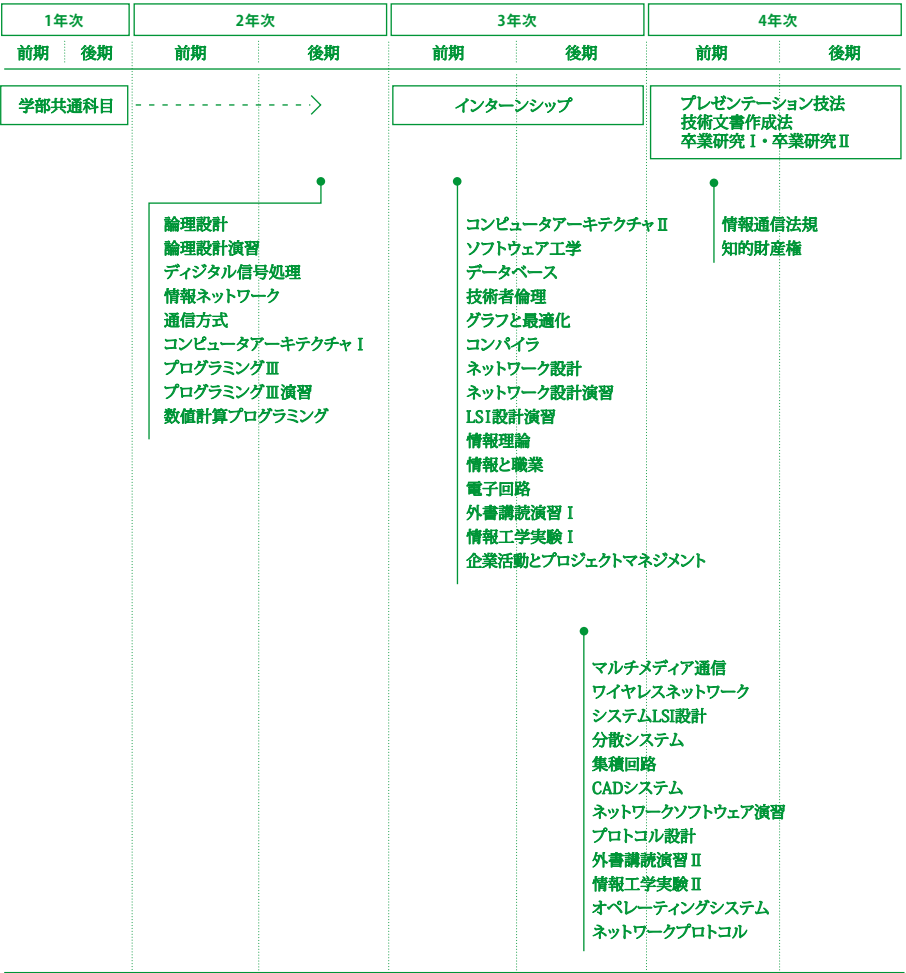
》情報工学科

●コンピュータコース ●ネットワークコース

次世代を見据えた情報環境の創造を、ソフト&ハードの両側面から追求

情報工学科では、コンピュータとネットワークに関するハードウェア技術及びソフトウェア技術を広範囲に教育研究します。これらの技術をベースに、コンピュータとネットワークの融合技術、情報環境に対応できる人材を育成します。

Ⅲ 教育課程



コンピュータコース ≫ 情報工学科

コンピュータのハードウェア、ソフトウェアなどに関する基礎的な知識を学び、システムソフトウェア、システムLSI、組み込みシステムなどの高度情報化社会を支える情報システム及び新しいコンピューティング環境に対応できる人材を育成します。

●研究室、研究テーマ

コンピュータデザイン

コンピュータのおかげで便利になった世の中。それだけに、コンピュータが間違ったり動かなくなると社会生活に支障が出てきます。研究室では、誤動作や障害を未然に防ぎ、安全で安心して使えるコンピュータとその作り方について研究します。

論理回路システム

コンピュータのハードウェアとソフトウェアは論理回路・論理設計の理論に基づいて統一的に議論することができます。本研究室では、論理回路学とVLSI設計技術に基づいて、コンピュータに関する最先端の研究課題に取り組んでいます。

コンピュータシステム

膨大な計算を行うスーパーコンピュータから、自動車や携帯電話・家電製品に使われる組み込みシステムまで、各種のコンピュータシステムを利用する基盤となるハードウェア・ソフトウェアの基礎技術を研究します。

コンピュータアーキテクチャ

速くて使いやすい新しいコンピュータを作る研究をします。ハードウェアに可変構造のデバイスを利用した新しいアーキテクチャの研究や、そのハードウェアが使いやすいようなソフトウェアについて研究します。

ネットワークコース ≫ 情報工学科

インターネット、モバイル通信、デジタル放送などに関する基礎的な知識を学び、いつでもどこでも利用可能なユビキタスネットワークなどの情報ネットワーク及び次世代のメディア協調型情報ネットワーク社会に対応できる人材を育成します。

●研究室、研究テーマ

ネットワークソフトウェア

各モバイル端末が端末そのものの機能だけでなくデータ中継機能の役割も果たし、無線だけでネットワークを構成するアドホックネットワークの研究を行い、登下校時の児童の見守りなどに応用しています。

情報ネットワーク

情報ネットワークに関わる基盤技術、そのシステム及びネットワーク全体を対象としたさまざまな技術について教育研究を行っています。また、衛星通信のVSAT地球局も設置しています。

環境メディア

電波による宇宙・地球環境の観測、地震と電波の関係、テレビ放送波によるヒト検知、瀬戸内海上電波伝搬、船舶安全航行ネットワーク、心地よい音響環境、フーリエ音響学の研究を行っています。

インターネット工学

全世界に広がるインターネットを研究材料としています。インターネットで使う新たな通信手順の設計をしたり、コンテンツの流通や映像・音声を送送するシステムを開発し、実際にインターネットでそれを使ったりします。移動しながらの通信手順や広域センサーネットワークも開発中です。

知能工学科

- 知能ソフトウェアコース
- 知能メディアコース

人間の知的なコミュニケーションや情報行動を支援するシステムの構築

知能工学科では知識基盤社会における人間の知的なコミュニケーション行動や情報行動を支援する高度な知能情報システムの技術者及び研究者を育成するために、知能ソフトウェアコースと知能メディアコースの2コースを設置しています。また、両コースに共通な教育として、コンピュータグラフィックス、データベース、ディジタル信号処理、最適化理論、情報理論、数理論理学、グラフ理論概論などが開設されています。

教育課程

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
学部共通科目		----->		インターンシップ		技術英語Ⅱ・プレゼンテーション技法 技術文書作成法 卒業研究Ⅰ・卒業研究Ⅱ	
				● 計算論 データベース 技術者倫理 データマイニング コンピュータグラフィックスⅡ コンパイル 情報セキュリティ 情報理論 記号処理プログラミング 情報と職業 人工知能 パターン認識 知能工学実験Ⅰ 企業活動とプロジェクトマネジメント			● 情報通信法規 知的財産権
		● コンピュータグラフィックスⅠ グラフ理論概論 数理計画法 情報ネットワーク オペレーティングシステム 数理論理学 ディジタル信号処理 数値解析 プログラミングⅢ プログラミングⅢ演習				● 最適化理論 感性情報処理 技術英語Ⅰ 機械学習 医用画像処理 情報検索 画像情報処理 自然言語処理 知能工学実験Ⅱ ソフトウェア工学概説 バイオインフォマティクス	

知能ソフトウェアコース 知能工学科

知能情報処理に必要な人工知能、データマイニング、機械学習、ヒューマンコンピュータインタラクション、知的情報検索エンジン、エージェント、発見的探索などを学び、知識基盤社会に重要な知能情報システムを開発できる人材を育成します。

研究室、研究テーマ

知能工学

人工知能やVRの技術を基に、学校や企業での教育や学習活動を支援するための知的学習支援システムやeラーニングの研究を行っています。また、ヒトの感性と知識を結びつける感性工学の研究も行っています。

データ工学

文字・数値、テキスト、音声、画像などで表現されるデータを用いて、人間の知識創造活動を支援する情報システムの構築に挑戦しています。特に、ビッグデータやデータベースからの知識発見、マルチメディアデータ処理、分散並列処理、視覚的な情報コミュニケーション、情報マネジメントなどに注目しています。

知能システム

生物の進化や昆虫の群行動などに基づく自然コンピューティング、脳神経系に基づくニューラルネットワークなどに関する研究を中心に、知的モデルや計算アルゴリズムの提案、知的システムの構築などを行っています。

機械学習

機械学習とは、人間が自然に行っている学習と同様の機能をコンピュータ上で実現するための技術のことです。機械学習手法を用いた特徴的パターンの発見や、データマイニングへの応用について研究を行っています。

知能メディアコース ≪ 知能工学科

画像、映像、幾何データ、音声、文書などのメディア情報処理に必要な画像情報処理、コンピュータグラフィックス、パターン認識、自然言語処理などを学び、知識基盤社会に重要なメディア情報処理システムを開発できる人材を育成します。

●研究室、研究テーマ

画像メディア工学

原爆ドームの立体表示や被爆資料の仮想展示、そして医用画像からの病変検出や絵画の解析と生成など、画像メディアに関する「見る(診る)技術」と「見せる(魅せる)技術」の研究を行っています。

コンピュータグラフィックス

映画やゲームでおなじみのコンピュータグラフィックス。ここでは、三次元計測のデジタル処理により魅力的な映像を制作するための技術の開発に取り組んでいます。

言語音声メディア工学

人と機械や、異なる言語を話す人同士での自然で豊かなコミュニケーションを実現するために、音声で対話するCGキャラクターや機械翻訳、大規模な文書集合から必要な情報を言語で検索する技術などに取り組んでいます。

知的メディア工学

テキスト、画像、データなどのさまざまなメディアにおける知識の獲得、知識を適用した知識情報処理の手法の開発や応用、コンピュータが自分で協調して学習を行うマルチエージェントの研究を行っています。また、データを圧縮したり、通信で起こる誤りを訂正したりするための、より効率的な技術について研究しています。物理的な手法を系統的に適用することによって、情報科学に新しい視点を開くことを目指しています。

パターン認識

パターン認識とはデータに潜む規則性を見つけ出すことであり、文字認識や音声認識に応用されています。ここではビデオ、環境音、テキストなどの(時)系列データを対象に、データに潜む規則性を計算機に自動発見させる機械学習の研究を行っています。

≫ システム工学科

●制御・メカトロニクスコース ●通信・インタフェースコース

人間・コンピュータ・情報システムの調和を図りユビキタス社会を実現

大規模・複雑システムとそれらを利用する人間全体を1つのシステムとして捉え、それぞれの固有技術や特性を理解するだけでなく、それらを有機的に統合し、効率・環境・安全などのより広範な価値観のもとで、システム全体の協調と調和を図る幅広い視野と創造的な技術者、研究者を育成します。

Ⅲ 教育課程

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
学部共通科目		----->		インターンシップ		プレゼンテーション技法 技術文書作成法 卒業研究Ⅰ・卒業研究Ⅱ	
				●電子回路Ⅱ コンピュータグラフィックスⅡ メカトロニクスⅡ ロボティクスⅠ 通信工学Ⅰ 最適化手法 技術者倫理 制御工学 数値計算法 偏微分方程式 ソフトコンピューティング 情報と職業 人間工学 システム工学実験Ⅰ 企業活動とプロジェクトマネジメント		●情報通信法規 知的財産権 外書講読演習Ⅱ	
		●電子回路Ⅰ コンピュータグラフィックスⅠ メカトロニクスⅠ 常微分方程式 応用幾何学 オブジェクト指向技術 情報ネットワーク 情報理論 電気電子計測 ソフトウェア工学概論		●ロボティクスⅡ 通信工学Ⅱ マルコフ決定過程 デジタル制御 現代制御理論 リアルタイムシステム 音響システム工学 情報セキュリティ概論 ヒューマンインタフェース 外書講読演習Ⅰ システム工学実験Ⅱ			

制御・メカトロニクスコース 》 システム工学科

デジタル家電や生産工場での制御機器、各種ロボット、福祉機器などが、より使いやすく高度な機能を発揮するためのシステム化技術を学び、人類が快適で理想的な社会を作るための、人にやさしいシステムを開発する幅広い視野を持った人材を育成します。

●研究室、研究テーマ

機械制御

主として、機械分野を対象とした制御システムの研究開発を行っています。具体的には、筋肉運動の解析と機械への応用、福祉機器への応用を目的とした空気圧システムの開発、各種のシステムのモデリング、シミュレーション、開発を行っています。

知的制御システム

制御と生体計測をキーワードに、自動車の全自動後退駐車システム、視線情報を用いた安全運転支援システム、ドライバーの運転訓練システム、救急車で傷病者を迅速かつ安全に搬送するための総合システムなど、人と環境に優しいシステムの研究・開発に取り組んでいます。

通信・インタフェースコース 》 システム工学科

ネットワークで結合された大規模で複雑なシステムが、互いに協調して動作するためのデジタル通信、高信頼化、組み込みソフトウェア開発などのシステム化技術を学び、ユビキタス社会を実現させることのできる幅広い視野を持った人材を育成します。

●研究室、研究テーマ

通信・信号処理

現在注目されている地上波デジタル放送関連、次世代モバイル通信など新しい情報通信システムに関する研究、単電子デバイスを使った新しいフィルタ回路の提案などナノエレクトロニクス分野に関する研究を主に行っています。

サービス指向ソフトウェア

ソフトウェアを設計するための基礎技術、複数のコンピュータを共同作業させる技術、機器に組み込まれたシステムを効率よく設計する技術、情報の盗聴・成りすまし・改ざんなどを防ぐ技術、システム設計の最適化を自動的に行う技術などの研究を行っています。

人間工学

道具、機械、環境などをヒトに適したものに設計する人間工学、メカトロニクス、音響工学・認知科学分野で有用なパターン認識などの教育を展開。基礎科目で学んだ知識に基づき、ヒトの音響・視覚情報に対する感じ方の研究やインタフェースの研究を行っています。

ロボティクス

テレビゲーム、携帯電話、楽器、家具等日常生活のさまざまな道具と連動するロボットシステムとその要素技術(移動ロボット、物体操作、メカトロニクス、ネットワーク、ヒューマンインタフェース等)の研究開発を進めています。また、医療介護福祉ロボットの応用開発にも取り組んでいます。

システムインタフェース

コンピュータを活用して、人間の創造力や発想力を高め、人間の知的作業を支援するシステムを構築し、インターネット上の情報発信やコミュニケーションの促進、オンライン学習環境の構築と学習効果の増幅を目指した研究を行います。

数理科学

スポーツ、医療、自然現象などに関する確率過程論、代数多様体を研究対象とする代数幾何学、因子分析法の数理的基礎に関する数理統計学、数理システムと空間配置の幾何学など、各教員が個々の分野の研究に取り組んでいます。

≫ 医用情報科学科

● 医用情報コース ● 光・電子計測コース

ICTに関する十分な基礎教育とそれを超えた学際色豊かな専門教育

医用情報科学科では、豊かで安心・安全な社会の実現を目指し、情報通信技術(ICT)に関する基礎知識を修得し、その基盤の上に医用情報、生体情報、光・電子計測といったICT融合領域の専門知識・技術を学ぶことで、医療、生命、環境といった現代社会に係る諸問題に既存の学問体系の枠を超えて取り組むことのできる人材の育成を目指します。

Ⅲ 教育課程

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
学部共通科目		----->		インターンシップ 臨床情報工学プログラム		プレゼンテーション技法 技術文書作成法 卒業研究Ⅰ・卒業研究Ⅱ	
		医用情報科学 電気磁気学 医用電子工学 生体信号処理 数値解析 電子情報計測 分子生物学 メカトロニクスⅠ 量子・統計力学 医用プログラミング		情報と職業 デジタル信号処理 コンピュータシステム論 外書講読演習Ⅰ 医用情報科学実験Ⅰ 技術者倫理 生体センサ工学 生体情報工学 生物工学Ⅰ 制御工学 機器分析 電子物性 応用光学 データベース パターン認識 人間工学 企業活動とプロジェクトマネジメント		情報通信法規 知的財産権 情報ネットワーク 外書講読演習Ⅱ 医用情報科学実験Ⅱ 脳情報工学 生物工学Ⅱ 視覚情報工学 バイオメカニクス 集積化デバイス 光エレクトロニクス 光バイオイメージング バイオインフォマティクス 医用画像処理	

※ 臨床情報工学プログラムで開講される医療系科目(医歯薬保健学Ⅰ、医歯薬保健学Ⅱ、医療系実習)を卒業要件の単位として認定します。

医用情報コース ≫ 医用情報科学科

医療への応用を見据えた情報科学、電子工学、生体工学、生物工学に関する知識と技術を学び、ミクロな視点(分子レベル)からマクロな視点(システムレベル)までの幅広い視野をもった医工学領域に貢献する人材の育成を目指します。

● 研究室、研究テーマ

生体理工学

人間の脳機能をシステムとして理解する研究や脳機能計測解析システムを開発する研究を行っています。さらにその研究成果を応用展開し、脳機能の診断・治療・リハビリを行う医療機器及び自動車の安全性・快適性を高める技術の開発を行っています。

バイオシステム工学

エネルギー、環境、食糧、生命科学など現代社会が直面している諸問題に対して、微生物からヒトまで広く生物を対象として、生命現象の解明とICT(情報通信技術)への応用、ICTのバイオテクノロジーへの活用など、ICTと生命科学が連携した領域の研究を行っています。

光・電子計測コース ≫ 医用情報科学科

情報科学、電子工学、自然科学(物理学、化学、生物学)の学際・融合領域の研究を行い、「はかる(計測)」と「つくる(ものづくり)」を合言葉に、医療や環境といった人類に係る諸問題に既存の学問体系の枠を超えて取り組むことのできる人材の育成を目指します。

● 研究室、研究テーマ

光システム計測

さまざまな生命及び自然現象の謎に、情報科学(機器制御、データ転送・解析など)と物理・化学的手法を融合した最先端の光計測技術で迫ります。合言葉は「見えないものを見てやろう!」です。現在は、免疫細胞の活動や大気化学・宇宙化学に関与する分子の性質などを調べています。

集積回路デバイス

ICT社会を支える集積回路及びそれを構成するトランジスタなどの半導体デバイスを対象として、デバイス構造と性能の関係を説明するために必要な情報科学と物理学を基に、デバイス自体とそれを組み合わせた回路に関する改良と新原理提案を含む研究を行っています。

情報物性工学

医療機器のための光・電子センサー材料やコンピュータに関わる新素材を探索・創製することを目的とし、物性的見地から、主に「多孔質シリコン」「半導体量子ドット」「磁性半導体」などに関する研究を行っています。

臨床情報医工学プログラム

●広島市立大学・広島大学・広島工業大学・広島国際大学連携

医情報系、医療系、医工学系、医療理工学系の知識を身につけた人材の育成を行います。

臨床医学・医療分野の発展とその社会貢献には旧来の医療系研究の手法だけでは不十分で、飛躍的に進歩している情報学・工学分野との連携が必須です。本プログラムでは学士課程、大学院課程における医療系・情報系・工学系の異分野が融合した教育・研究の展開から、「臨床情報医工学」の確立を目指しています。カリキュラムでは、医療系、医情報系、医工学系、医療理工学系の内容を含んだ講義を提供するとともに、豊富な臨床実習や特別演習による能動的学修環境を提供し、臨床現場での実践力を備えた人材を育成します。

●カリキュラム

本学の学生は情報科学部で学ぶ内容に加え、医療、医工学、医療理工学の知識を身につけることができます。

共通科目	実際の医療施設等での実習により目標を明確にし、合同合宿研修等により能動的に問題解決する能力を養います。
・早期医療体験実習	
・臨床情報医工学特別演習	

医情報系科目 ― 広島市立大学担当	
・医用情報科学	医療と情報科学の融合領域について学ぶとともに、生体信号処理や医用画像処理といった医用情報処理について学びます。
・生体信号処理	
・医用プログラミング	

医療系科目 ― 広島大学担当	
・医歯薬保健学Ⅰ	医歯薬保健学の基礎的事項を広く学び、医療と情報系・工学系の関係についても学びます。
・医歯薬保健学Ⅱ	また、医療現場での実習を通して、知識を経験として得ることができます。
・医療系実習	

医工学系科目 ― 広島工業大学担当	
・医療機器の原理と構造	電気・電子回路の基礎知識を学び、学んだ知識が実際にどのような機器に利用されているか知ることができます。さらに実験を通して医療機器の設計や動作について学びます。
・医用電子工学	
・臨床医工学実習	

医療理工学系科目 ― 広島国際大学担当	
・保健医療学概論	医療職種、医療倫理、チーム医療、生命システムについての基礎を学びます。また、臨床放射線科学、臨床工学、臨床検査学、救急医療について講義・演習を通して学びます。
・診療技術論	
・医療理工学演習	

●遠隔講義システム

他大学の講義を受講するに当たっては、情報科学部に設置されている遠隔講義システムを利用します。他大学の講義を、他大学に行くことなく受講することができます。

●学生交流

学外にも共に学ぶ仲間を作ること、学生生活がより有意義なものになります。

教員一覧

氏名	専門分野	氏名	専門分野
 准教授 青山正人	医用画像診断支援	 教授 大場 充※	ソフトウェア工学
 准教授 アダムス、ロルフ Adams,Rolf	オブジェクト指向技術	 講師 岡本 勝	知識工学、 学習システム
 助教 厚海慶太	計測制御工学	 准教授 小野貴彦	制御工学、 人間工学
 教授 石田賢治	情報ネットワーク	 講師 小畑博靖	通信プロトコル、 衛星通信
 教授 石光俊介	音響工学	 教授 角田良明	ネットワーク ソフトウェア
 教授 石渡 孝	レーザー化学	 講師 神尾武司	計算機工学
 准教授 市原英行	VLSI設計自動化	 講師 上土井陽子	分散コンピューティング
 助教 稲木雅人	VLSI設計自動化	 講師 川端英之	システムソフトウェア
 助教 稲葉通将	エージェント、 データマイニング	 助教 川本佳代	教育工学
 助教 井上伸二	ネットワーク ソフトウェア	 教授 北上 始	ビッグデータ マイニング
 教授 井上智生	ディペンダブル コンピューティング	 教授(情報処理センター長) 北村俊明	プロセッサ アーキテクチャ
 准教授 井上博之	コンピュータ・ ネットワーク	 助教 串田淳一	進化的計算
 助教 岩垣 剛	デジタルシステムの 設計とテスト	 助教 窪田昌史	システムソフトウェア
 教授 岩城 敏	ロボティクス	 准教授 黒木 進	マルチメディア データベース
 准教授 岩田一貴	数理工学	 助教 黒澤義明	発話意図理解
 准教授 岩根典之	知識工学	 講師 桑田精一	物性理論
 准教授 内田智之	データマイニング、 機械学習	 講師 香田次郎	生物工学
 准教授 大田知行	ネットワーク ソフトウェア	 助教 河野英太郎	情報ネットワーク

氏名	専門分野
 准教授 小寄貴弘	制御工学
 助教 小作敏晴	機械工学
 助教 児島 彰	システムソフトウェア
 教授 小林康秀	システム制御工学
 講師 齋藤夏雄	代数幾何学
 助教 齊藤充行	最適制御工学
 教授 佐藤 学	数理統計学
 助教 佐藤康臣	ソフトウェア工学
 准教授 島 和之	ソフトウェア工学
 講師 新 浩一	電波工学
 准教授 末松伸朗	パターン認識、 機械学習
 助教 鈴木祐介	データマイニング、 機械学習
 准教授 砂山 渡	ウェブマイニング
 准教授 関根光弘	トポロジー
 准教授 双紙正和	セキュリティ
 助教 高井博之	メカトロニクス インタフェース
 准教授 高野知佐	ネットワーク、 性能評価

氏名	専門分野
 教授 高橋健一	パターン知識処理
 准教授 高橋 賢	無線通信、電波応用
 助教 高橋雄三	人間工学
 准教授 高橋隆一	プロセッサ設計技術、 学習デザイン
 教授 高濱徹行	自然コンピューティング
 教授(社会連携センター長) 竹澤寿幸	音声言語情報処理
 准教授 田中公一	電子光物性
 教授 田中輝雄	確率過程
 講師 谷川一哉	計算機アーキテクチャ
 講師 谷口和弘	介護福祉ロボティクス
 准教授 田村慶一	並列処理、 データ工学
 助教 辻 勝弘	集積回路デバイス
 教授 寺田和夫 ※	機能デバイス学
 助教 常盤達司	生体計測工学
 教授 中田明夫	組込みシステム
 准教授 中野靖久	視覚情報工学
 准教授 永山 忍	論理設計

氏名	専門分野
 准教授 難波英嗣	自然言語処理
 准教授 西 正博	通信工学、 電波サイエンス
 准教授 八方直久	情報物性
 講師 馬場雅志	コンピュータグラフィックス
 教授 林 朗	パターン認識
 准教授 原 章	進化的計算論
 教授(副学部長) 日浦慎作	コンピュータビジョン
 助教 疋田真一	制御工学、 人間工学
 講師 廣門正行	代数幾何学
 教授 弘中哲夫	計算機アーキテクチャ
 教授 樋脇 治	生体工学
 准教授 福島 勝	レーザー分光
 准教授 福田浩士	計算論的神経科学
 准教授 藤坂尚登	非線形回路
 准教授 藤原久志	光情報計測
 講師 藤原 真	電子光システム
 准教授 舟阪淳一	ネットワークソフトウェア

氏名	専門分野
 准教授 古川 亮	コンピュータビジョンCG
 教授(附属図書館長) 前田香織	コンピュータ・ネットワーク
 教授 松原行宏	知識工学
 准教授 三村和史	数理工学
 准教授 宮崎大輔	コンピュータグラフィックス
 准教授 宮原哲浩	機械学習、 データマイニング
 准教授 村田佳洋	組合せ最適化
 助教 目良和也	感情情報処理、 対話理解
 助教 森 康真	知識情報処理
 教授(学部長) 矢野卓雄	バイオシステム工学
 教授 吉田彰顯	情報通信、 電波サイエンス
 教授(副学長) 若林真一	論理設計、 組合せ最適化
	—
	—
	—
	—
	—

※印の教員は平成25年度末に退職の予定です。



レーザー二重共鳴装置

原子や分子に2つの波長の異なるレーザーを照射し、光応答性から電子励起状態の化学的性質を解析します。



3次元モデル生成システム

デジタルカメラやレーザー計測器を使って得た実物体のデータを解析して3次元形状と表面反射特性を推定し、CG技術を使って実物体を高精細に再現するシステムの研究開発を行っています。

研究設備・実験風景

Research Facility
Experiment Image

最先端の機能と設備が学習を深め、最新の研究を生み出します。

アイカメラ

複数のディスプレイをモニタしている時の目の動きをアイカメラで測定しています。測定した目の動き(視行動)を用いてプロトコル分析を行うことにより、安全でストレスなく、確実にシステムとインタラクションできるマルチディスプレイのインターフェース・デザインに必要なデータを得ることができます。



電波測定装置

スマートフォン、無線LAN、電波時計、デジタルテレビなど、電波はとも身近なメディアとなりました。目には見えない電波を私たちはアンテナや受信機を用いて計測しています。日々の気象変動や太陽活動によって、電波の届き方が面白く変化し見えてきます。また、室内への人の侵入も電波で容易に検出できます。



情報工学実験風景

LEDや各種センサが搭載された小型CPU内蔵のロボットカーとAndroidタブレットを用いた実験です。地面に書かれた線の上をたどりながら、ロボットカーの情報を無線LAN経由でタブレットに送信するプログラムなどを作成することで、コンピュータの構造やネットワークに関する知識を実践的に身につけていきます。



モーションキャプチャ

人の動きを、多数のステレオカメラで撮影し追跡することで、骨格の動きをデータ化することができるシステムです。CG技術や、人の動作の解析に関する研究を行っています。



筋電位測定実験風景

書字運動の「個人差」を定量化するため、前腕筋肉の活動電位と手・手首の関節角度を計測し、それらと筆跡の関係を時系列解析やソフトコンピューティングなどの手法を用いて解析しています。生体認証、筆跡解析への応用の他、書字運動が病気や障害によって失われた場合の精神的、運動学的リハビリテーション用の書字支援システムの開発を目的としています。



脳波測定実験風景

脳波計はヒトの脳における電気活動を頭皮上に配置した電極で記録する測定機器で、視覚や聴覚などの感覚や運動制御における脳の情報処理メカニズムの解明に用いられます。また、コンピュータ上で脳活動をリアルタイムに解析することができるため、脳活動を使ってドライビングシミュレータなどの外部装置を動かすことが可能です。





創造することの喜びを通して

芸術学部は平成6年、中四国・九州で初の4年制公立芸術系専門学部として始まり、その後、大学院博士前期、後期課程までを併設し、高度な芸術教育研究機関として設立されました。

全国的に見ても最新の設備を整え、周囲の豊かな自然の中、創作・研究に専念出来る理想的な環境を備えています。

学部入学後は美術、デザイン、工芸の様々な分野で、専門的な知識や技術をしっかりと修得していきます。

また社会や海外との連携プログラムを通して、より実践的で現代に必要な知識と技術を身につけ、更に広く、深い芸術・文化に触れていきます。

国内外の古今の芸術・文化をじっくりと学び、そして、未来に向けて新しい世界を創造していきます。

日々、一步一步自分の道を歩みながら、作品の創造とともに、将来の自らの夢を創造していただろう。



芸術学部長

前川 義春

MAEKAWA Yoshitaru



温度一つで素材の質感が変わってしまう。思い通りに染めたいから、カンガンのありさま。



トントんカラリ...トントんカラリ...機重も糸が織りなす温かな色彩がやさし。





いつもは気持ちよく表現できないけど、素直な思いが作品に込めて、伝わる。

自己表現の可能性を追求するために、理論と実技を身につけ、感性を育みます

求める人物像 Admission Policy

豊かな感性と創造力を持ち、時代の変化に柔軟に対応して、
多様な技術を修得したいと考える学生を求めています。
創作活動を通じて、地域社会と国際交流に貢献する意欲を重視しています。

創作活動に必要な基礎的な表現力を持ち、
それをさらに伸ばしたいと考えている人

独自の表現方法を見つけて自分のものとするために、
多様な素材や技術を学びたい人

地域社会や国際交流を通して、
社会と関わりながら表現活動を行いたい人

教育方針 Educational Concept

創作活動の基本となる基礎実技をしっかりと修得し、
多様な技術を総合的に学んだ上で、地域社会や国際交流でも
アートを通して活躍できる能力を育んでいきます。

創作活動を続けるために基礎実技を重視

自己の表現を追求する創作活動を続けていくために必要な観察力と
造形力を養う基礎実技の修得を重視した教育を行っています。

多様な技術修得のための多角的・総合的な教育

独自の表現方法と出会うために、過去から現在にいたるさまざまな分野の素材や
技術を学ぶことができる、多角的で総合的な教育を行っています。

地域と国際を軸に芸術の社会的役割を学ぶ

地域社会との連携や海外との学術交流などを通して、芸術の社会的な役割を知り、
社会の中で表現活動を行う実践的な機会を提供しています。

年次チャート、学部共通科目

1年次		2年次	3年次	4年次	
全学共通系科目・外国語系科目・資格取得科目					
美術学科	●日本画専攻			卒業制作 卒業制作は、学部4年間の実習と創作研究活動の集大成として成果の発表を行い、自らの創作活動を確認し、社会へのメッセージを発信するものです。制作に当たっては充分な準備と時間をかけて、持てる力を限界まで引き出し、意欲的な表現を探究します。また広島市現代美術館と本学芸術資料館等における卒業制作作品の展示を出発点として、将来の創作活動の方向性を自覚するプロセスともなります。	
	●油絵専攻	1年次から各専攻に分かれ、専門的な知識と技術を修得していきます。			
	●彫刻専攻				
デザイン工芸学科	1年次ではデザイン・工芸の基礎実技を通して幅広い表現法を修得。2年次から各専門分野に分かれて、実技実習を行います。	現代表現領域 ●現代表現			
		デザイン工芸領域	●視覚造形		
			●立体造形		
			●メディア造形		
			●金属造形		
			●染織造形		
		●漆造形			
専門基礎科目	専攻に関わらず、創作活動の基盤となる幅広い分野の基礎知識と技法を学びます。				

》美術学科

●日本画専攻 ●油絵専攻 ●彫刻専攻

基礎技術修得と幅広いカリキュラムで、創造者としての感性を養い、時代に貢献する人材を育成

美術学科は、純粋芸術の専門的な教育・研究を行います。芸術の創造者としての基盤となる感性を養い、的確な造形表現をするための能力の充実を図ることができる基礎教育を重視します。日本画・油絵・彫刻は、それぞれの分野において造形の体系を形成した歴史や哲学、科学などがあり、人文学的な要素についても学ばなければなりません。それらの確固たる造形性を修得した創造者を目指して、実技演習のみならず基礎の教養の充実を図ります。それとともに、現代を思考し、専門領域のみならず幅広い視野で芸術を理解できるようなカリキュラムを組み込み、これからの社会に創造者として発表する上で必要な能力を育て、新たな時代を形成し貢献する人材を輩出することを目指しています。

Ⅲ 教育課程

	専門基礎科目		日本画専攻	油絵専攻	彫刻専攻
1年次	現代美術演習Ⅰ 美術解剖学 デザイン概論 工芸概論	油彩画材料論 油絵入門 日本画入門 色彩論	日本画実習Ⅰ 材料実習Ⅰ デッサン実習Ⅰ 構成実習Ⅰ(平面)	油絵基礎演習 デッサン実習Ⅰ 構成演習Ⅰ(平面) 油絵実習Ⅰ 彫刻演習 版画制作実習Ⅰ	彫刻実習Ⅰ デッサン実習Ⅰ 構成演習Ⅰ 実材制作基礎演習 (工芸制作を含む。)
2年次	図法及び製図 西洋美術史 材料技法演習 現代美術演習Ⅱ 工芸制作Ⅰ・Ⅱ(演習) 芸術工学 工芸材料概説	写真(映像)概論 現代美術史Ⅰ・Ⅱ 版画制作演習 絵画論 アートマネジメント概論 造形応用研究Ⅰ	日本画実習Ⅱ デッサン実習Ⅱ 構成演習 材料実習Ⅱ(金属材料) 彫塑演習	油絵実習ⅡA・B 版画制作実習Ⅱ 学外演習 デッサン実習Ⅱ 構成演習Ⅱ(平面) 油絵材料・技法演習 (古典技法)	彫刻実習Ⅱ デッサン実習Ⅱ 実材制作実習Ⅰ 構成実習Ⅱ (平面・立体)
3年次	美学 日本美術史 東洋美術史 西洋美術史特論	文化財学研究 彫刻概論 現代美術論 造形応用研究Ⅰ・Ⅱ	日本画実習Ⅲ 古美術研究(演習) デッサン実習Ⅲ 材料実習Ⅲ 構成実習Ⅱ(平面)	古美術研究(演習) 構成演習Ⅲ(平面) 油絵実習ⅢA・B デッサン実習Ⅲ	彫刻実習Ⅲ 古美術研究(演習) 実材制作実習Ⅱ 彫刻論 (古典研究を含む。) 構成実習Ⅲ(立体) デッサン実習Ⅲ
4年次	造形応用研究Ⅰ・Ⅱ		日本画実習Ⅳ 絵画論演習 技法演習(裏打技法) 卒業制作(演習)	油絵実習ⅣA・B 卒業制作A・B(演習)	彫刻実習Ⅳ 卒業制作

日本画専攻 》美術学科

基礎教育から独創的な表現にいたる指導で、創造性に富んだ人材を育成

日本画専攻の目標

日本画の伝統的絵画表現という側面と、現代を生きる芸術家としての自由な表現とを両立した、広い視野を持ち、芸術表現の可能性を追求する21世紀に生きる現代日本画作家の輩出を目標としています。4年間の多彩で多様な授業を通して、高い知識、確かな技術を修得すると同時に創造性、独創性に富んだ卓越した人材を育成することを目標に、これからの文化芸術の創造・発展に貢献することを理念としています。

■ 授業概要

4年間の授業の中で、写生、技法研究等の基礎教育から、独創的な表現に至る段階的な指導を行っています。1年次では材料の扱い方や制作を主に基礎力を高め、2・3年次では写生旅行や古美術研究旅行等によるスケッチ取材や文化財の実地見学の体験を通じ創作の幅を広げます。4年次には、今までの授業の集大成となる卒業作品を制作。各学年とも表現者としての基礎を身につけるため、デッサンや写生を重視。また、古典模写や、専門的な裏打ち技法や金、銀箔の授業も随時開設するなど、効果的な教育プログラムとなっています。

■ 卒業後の展望

日本画専攻では、優秀な作家の養成とともに、教職課程、学芸員資格等の取得にも積極的に取り組んでいます。教育機関や研究施設における指導者、研究者として芸術文化の振興に携わり、地域の文化に貢献しています。より専門的な技術や高い芸術性の修得を求める学生は、大学院の進学を希望します。進学、就職と進路はさまざまですが、多くの卒業生が公募展や個展等で積極的に作品発表を続け、高い評価を得ています。

油絵専攻 》美術学科

内面を重視しながら段階的に学んで、絵画の新しい造形と表現の可能性を探る

油絵専攻の目標

油絵は西洋の伝統的絵画造形の代表です。油絵を学ぶことは、その根底に流れる西洋の歴史や多様な精神文化も学び知ることになります。西洋の絵画を本質的に理解するための、実践的な実技教育を通して表現力を修得することで、指導内容に写実の精神のみならず、やがては新たな自己の表現を目指すことができる教育を目標にしています。油絵を学ぶことで自ら現代を広い視野で見ることができるよう人材の育成を理念とします。

■ 授業概要

4年間を段階的に教育・研究が進められるようカリキュラムを編成。1年次は、デッサン中心の基礎実技実習。2年次は、油絵制作中心の実技実習に加えて油絵材料・技法演習で基礎力を強化。また、1～2年次にかけて銅版画とリトグラフを学び平面造形を幅広く学びます。3年次には自主的な制作研究も取り入れ卒業制作への準備と、古美術研究では、イタリアでの実地研修で西洋の本質に触れて専門性を高めます。4年次は、集大成として卒業制作を行い、成果を発表します。

■ 卒業後の展望

卒業生はさらに専門性の高い教育を望み大学院進学や海外留学を選んだり、あるいは社会人として自立するために美術に関連する職業に従事しつつ、個展や公募展、各種企画展などの作家活動を続けています。中には既に作家として高い評価を得ている者もいます。また美術指導者や研究者として専任・非常勤の教員や学芸員として教育分野で活躍する者、培った造形的な応用力を生かしてデザインやアニメ、メディア業界などの多様な業種に進む者など、優秀な人材を輩出しています。

彫刻専攻 》美術学科

基礎実習と実材研究を通した新たな彫刻表現の探求

彫刻専攻の目標

常に実在物や現実空間と対峙することを必要とする彫刻専攻では、体験的学習を重視。塑造実習や木・石・金属、ミクストメディア等の実材実習を中心に、古美術研究旅行、彫刻論等を通して、実際にモノを扱い、現地を訪れ、作家から直接聞くことをカリキュラムの核としています。また、古代から現代までの芸術文化を研究することで、現代社会における芸術の役割を認識し、新たな彫刻表現を探求。さらに国際交流・地域連携を積極的に取り入れ、地域文化をリードする国際性豊かな人材を育成します。

■ 授業概要

4年間を通して、彫刻の基礎となる塑造を中心に制作を行っていきます。人体をモデルに骨格・構造などの仕組みを把握し、自然から彫刻芸術の基礎的な形態を学びます。併せて東洋・西洋の古典、現代までの多様な芸術表現を学習することによって、自らの創造基盤をつくり上げます。1・2年次には、実材の基礎的知識と技術を身につけることを目的として学習・制作に取り組みます。3年次以降は、実材を選択し、自主課題に沿った制作活動の中から自己表現の方法を学びます。

■ 卒業後の展望

学部卒業後は、毎年多くの学生が進学を希望し、さらに高度な創作・研究を進めていきます。学生の多くは、教職関連や造形力を生かせる職業に就きながら、作家としての自立を目指し、広島を中心に個展を開催したり、公募展やグループ展、プロジェクトに参加して、発表や活動の場を広げていきます。さらに、海外の芸術大学へ留学する学生もあり、国際的視野を持ち、併せて地域に根ざしたさまざまな面で活躍しています。

≫ デザイン工芸学科

現代表現領域

●現代表現

デザイン工芸領域

●視覚造形 ●立体造形 ●メディア造形 ●金属造形 ●染織造形 ●漆造形

確かな造形表現のための基礎を重視しながら、創造的な活動及び表現のできる能力を育てる

デザイン工芸学科は、社会と生活に関わる造形芸術の総合的な教育と研究を行うために、創造力、造形力を身につけ、確かな造形表現が行えるよう基礎教育を重視しながら、今日の社会における新しい表現と、長い歴史に培われた造形表現の双方を検証して、より専門的な造形表現へと展開していける学科です。それぞれ7つの分野を設け、幅広い表現を展開する専門領域の特徴を効果的に教育体制の中に反映させることで、広範な活動領域において柔軟に対応し、創造的な活動及び表現のできる能力を育て、新たな時代の形成と社会に貢献していくことができる人材の育成を行います。

Ⅲ 教育課程

	専門基礎科目		専門科目
1年次	現代美術演習Ⅰ 美術解剖学 デザイン概論 工芸概論 油彩画材料論	油絵入門 日本画入門 色彩論	造形実習ⅠA・B 描出演習Ⅰ 形体演習Ⅰ
2年次	図法及び製図 西洋美術史 材料技法演習 現代美術演習Ⅱ 工芸制作Ⅰ・Ⅱ(演習) 芸術工学 工芸材料概説	写真(映像)概論 現代美術史Ⅰ・Ⅱ 版画制作演習 絵画論 アートマネジメント概論 造形応用研究Ⅰ	総合表現研究(演習) 造形実習ⅡA・B 描出演習Ⅱ 形体演習Ⅱ
3年次	美学 日本美術史 東洋美術史 西洋美術史特論 文化財学研究 彫刻概論 現代美術論 造形応用研究Ⅰ・Ⅱ		古美術研究(演習) テーマ研究(演習) 造形実習ⅢA・B
4年次	造形応用研究Ⅰ・Ⅱ		造形研究(演習) 卒業制作(演習)

現代表現 ≫ デザイン工芸学科

CA+T(Contemporary Art and Theory)現代社会の要請に応える表現者を育成

現代表現分野の目標

現代表現分野では、現代美術から空間デザイン・都市デザインにいたる、都市の公共空間や商業空間での先端的表現の実践と理論構築を通じて、現代社会の要請に応える表現者の育成を目指します。また、国内外におけるアートプロジェクトの自主企画を通して、表現活動を支えるアートマネジメントや、展示の企画運営を行うキュレーションを修得。将来、日本でも中心的な領域になるであろう現代美術を、専門的・体系的に学ぶことができます。

■ 授業概要

前期は公共空間でのアートプロジェクトの企画・実践。後期は商業空間での先端的表現を実践。現代美術と商業デザインの関係を探り、広い視野の獲得を目指します。また、表現者として必要なプレゼンテーションの方法やポートフォリオ、アーティストブックの制作を学ぶと同時に、現場で活躍するキュレーターによる講義で、アートマネジメントの基礎を学習。卒業制作では、豊富な活動と経験を有する教員により、個々の学生に応じた作品制作の指導を行います。さらに、撮影実習からカタログのデザインまで、将来の活動を支える実践的な授業も行っています。

■ 卒業後の展望

活動領域が日本国内にとどまらない国際的なアーティスト。表現領域が従来のデザインにとどまらない先端的表現者。そして、それらの表現者を支えるアートマネジメントの場が、卒業後の活躍のフィールドです。これまでに、多くの卒業生が、それぞれの才能を発揮して、さまざまな場面で活躍しています。また、海外への留学生が多い現代表現分野では、国際的に活躍する作家を多く輩出しています。

視覚造形 ≫ デザイン工芸学科

視覚とコミュニケーションを重視した学習で、新しいビジュアル表現を創造

視覚造形分野の目標

視覚による知覚とコミュニケーションは、五感全体の8割を超えと言われています。視覚造形分野は、特にこの視覚を中心的に扱う分野として、「イメージを表現し伝えること(描く、書く、話す)」を重視しています。その具体的な仕事の一例は、グラフィックデザインやアートディレクション、イラストレーションに見ることができます。そして、視覚的表現を含むあらゆるデザインは表現の「計画」に他ならないのです。

■ 授業概要

調査に基づいた考察と対話を通じて表現計画を立て、多様な展開を示唆し創作性を向上させ、実習を通じて表現に必要な技術を修得。2年次は、イラスト・写真・CGといった描画基礎実習、ポスター・マーク・ロゴ・サイン計画・イベント企画・版画等の創作研究と東京デザイン研修を実施。3年次は、CI・広告・編集デザイン・テーマ制作等のグラフィックデザインを中心にデザインメディアへの応用・展開と、その表現とプレゼンテーションとして創作研究を行います。4年次では、創作研究、ポートフォリオ、卒業制作を行います。

■ 卒業後の展望

視覚造形分野では、過去に学び現代の洞察を通じて新しいビジュアル表現を創造する表現者の育成を目指しています。これまでの卒業生は、主にプロダクションにおけるグラフィックデザイナーとして活躍していますが、その他にも、広告代理店におけるCMプランナーやディレクター、印刷会社におけるアートディレクターや、イベントデザイナー、パッケージデザイナー、アーティスト、イラストレーターとなって、多方面で活躍しています。

立体造形 ≪ デザイン工芸学科

モノとデザインの本質を考え、幅広い視野で最適なモノづくりを目指す

立体造形分野の目標

立体造形は、生活の中の人・モノ・環境と関わる道具とシステム、人・情報が関わるさまざまな要素をデザインすることです。ともすれば効率性や経済的な価値を重視する現代の社会は、人と道具やモノに込められたココロの大切さを見失いがち。そこで、モノとデザインの本質を考え、幅広い視野で最適なモノづくりを目指します。人とプロダクトデザインの最適な関わりは何か。生活と社会の中の立体造形に対する創造性豊かで自由な発想力を尊重します。

■ 授業概要

実習をプログラムの中心に、計画、造形、伝達などの基礎的な項目を構想から実物の製作まで学習。2年次は多様な素材の作品を制作、道具と空間をデザインします。3年次は、構造－造形－機能のデザインを具体化し、その成果を展示・公開。4年次は、卒業制作に向けて、計画－構想から試作、展示、伝達のすべてのデザインを行い、学外の卒業制作展に具体化します。また、芸術資料館のコレクションに手を触れて学び、専門工房で製作、学外の体験学習と地場産業の見学研修体験とともにデザイン能力、表現力向上を同時に進めます。さらに、交換留学できる環境のもと、学部一博士後期課程まで多くの海外学術交流協定大学からの留学生と共に学び、海外との研究、教育交流で多様な文化との活発な共生・協働ができる授業を行っています。

■ 卒業後の展望

自動車のデザイン、家具、玩具・ゲーム、Webデザイン、ファッション、店舗、企画開発といった生活に関わるさまざまな分野でデザイナーとして卒業生が多く就職し、新しい生活と近未来社会を目指して問題を解決し貢献できる活動を広げています。

メディア造形 ≪ デザイン工芸学科

CGやアニメーション、コンピュータなどの技術を駆使したアートやデザイン表現を創造する

メディア造形分野の目標

映像メディアはビジュアルコミュニケーションの中核を担う存在になってきています。メディア造形分野は、さまざまなメディアに展開される「映像」を「光」「音」「動き」によって構築された時間軸表現による視聴覚情報伝達と捉え、基礎的な映像造形力を養うとともに、CGやアニメーション、コンピュータなどの先端技術を駆使した、アートやデザインの表現を創造。豊富な演習で、動画表現・映像を探究しながら、社会に適應できる人材を育成します。

■ 授業概要

2年次では、基礎的な造形力の養成をメインに「光」「音」「動き」等をモチーフにした造形実習を行い、同時にコンピュータでの各種アプリケーションソフトの技術修得によるスキルアップを図ります。3年次では、VRスタジオシステムを利用した映像制作の実習や、修得した造形感覚とスキルを活かし、各自が目指す方向性を探る演習を実施。4年次前期は、卒業制作に向けて学生の感性とスキルに合わせ、計画から試作を検討。後期には卒業制作に取り組んで作品発表を行うとともに、カタログ制作や映像パブリッシュメディアの制作も行います。

■ 卒業後の展望

卒業後の進路としては、映像制作会社・TV放送局、Web制作・デザイン制作会社、ゲーム制作業界などで就職し、身につけた技術や表現力を発揮する途があります。また、アーティスト・映像クリエイターとして活動し、多くのコンペティションで受賞している卒業生もいます。4年間のメディア造形分野の学習を通して培われた先鋭的感性、情報処理能力、人間力を生かしさまざまな分野で活躍する人材を輩出しています。

金属造形 ≪ デザイン工芸学科

金属素材との対話を通した確かな技術修得、柔軟な思考が独自の表現を生む

金属造形分野の目標

人類が金属素材に出会って以来、金属の可能性への探求は、モノづくりへの挑戦から始まったと言えます。金属造形では、「彫金」「鍛金」「鋳金」といった金属工芸の伝統的技法の修得を通じて、素材や歴史的背景について理解を深め、自己の制作を通して感性を磨きます。修得した確かな技術と柔軟な思考をもとに、現代における工芸、金属造形のあり方を考え、独自の表現と新たな方向性を探ります。

■ 授業概要

2年次は、手仕事を中心とする金属工芸の伝統的基礎技法を修得しながら、金属工芸の基本的な知識と技術を学びます。3年次は、課題制作を通じて、複合技術の修得とともに、より深い知識と高度な技術を学ぶことで、高い専門性と応用力を身につけます。また学年共通のテーマ制作では、制作から展示までのプロセスを総合的に学び卒業制作に備えます。4年次は、各自の卒業制作について綿密な検討を重ね、予備研究、習作を経て実制作に移り、4年間の集大成として卒業制作を完成させます。

■ 卒業後の展望

卒業後の進路は、製品開発、製造を行う企業での企画開発、デザインなどの分野で才能を発揮する、あるいはジュエリーデザイナーや工芸作家として独自の表現を追求する作家活動に入る、中学・高等学校の教員、専門学校の講師として学んだ技術を教える立場に立つなどさまざまな途に進むことができます。金属工芸を学び、磨いた感性を生かし、すでに社会で活躍する多くの卒業生に続いて、これからも幅広い分野で活躍し、自己の表現を追求していくことを期待しています。

染織造形 ≪ デザイン工芸学科

染織に関わる多様な素材や技法を修得し、現代社会での新たな表現を問いかける

染織分野の目標

染織は古来より、人々の生活の中に息づいてきました。特に、日本の染織文化は我が国の民族衣装である「着物」を基にして世界に類を見ないほど高い水準に達しました。現代でも日本人の染織作品やテキスタイルデザインは独自の美意識で世界からも注目されています。染織造形では、日本独自の多様な技法と感性の蓄積を見つめ直し、現代社会における染・織・繊維造形のあり方を広い視野から捉え、新しい染織の表現や可能性を問いかけていきます。

■ 授業概要

2年次には、染織に関わる素材（主に繊維と染料）に関する基礎知識を学び、染（^{ろうけつ} 騰織、型染、スクリーン捺染）・織（^{つづねおり} 緩織、^{そしきおり} 組組織、^{にじめおり} 二重織）特有の表現法を通して染織造形の基礎技法を修得します。3年次では、課題を通して技術・素材・知識に対する専門性を深め、個々の創作に対する意識の向上と創作表現に必要な技法の質的向上を目指します。さらに、共通のテーマに応じた作品の制作・展示・プレゼンテーションをすることで表現の幅を広げます。4年次は各自の考えたテーマによる卒業制作で自己表現の確立を目指します。

■ 卒業後の展望

染織造形では、染色、織物や繊維に関する知識と高い造形力を身につけ、デザイナーやアーティストとして、社会のさまざまな場で幅広く活躍できる人材の育成を目標としています。すでに、本分野からテキスタイルデザイナー、グラフィックデザイナー、染織作家、造形作家、教員など幅広い分野で活躍する人材を輩出しています。

漆造形 ≫ デザイン工芸学科

もの創りの必然性を追求し、創造性豊かな表現を目指す

漆造形分野の目標

現代の日本の経済力を作り上げた戦後の高度経済成長。しかし価値観が経済に集中しがちになった結果、画一化も進行し、人々の間で「心の豊かさ」が軽視されさまざまな社会問題が生じています。漆造形工房では、9千年に及ぶ人と漆の関わりや、技芸を学びます。自然と常に向き合う漆の仕事は自己を覚醒させ、もの創りの本質を導き出してくれます。長年の経験が必要とする奥の深い世界ですが、ここでの学習を生かし、現代社会に「心の豊かさ」を呼び戻す、そんな学生を育成します。

■ 授業概要

2年次以降の漆塗り基礎技術の修得として、多種多様な道具制作、木地から漆呂色上げまで約40工程におよぶ本堅地を学び、蒔絵、螺鈿、彫漆等の加飾技法を修得。3年次は素地造形を中心に轆轤、乾漆を修得。特に轆轤は地場産業でもある宮島轆轤の技術を基本に、刃物の鍛造から徹底指導。また金属など異素材の専門技術を学び、漆との複合的な創作研究や漆の歴史と自己表現のあり方を見直す古典を研究。4年次は学部の集大成とし、自由な造形表現の制作を行います。

■ 卒業後の展望

インテリアデザイナー、広告代理店、写真家、映像作家、高等学校教員、専門学校講師など、現在まで卒業生の就職率は非常に高く、幅広い分野で活躍する多くの人材を輩出しています。今後もより多くの分野で漆を学んだ学生が活躍することを望んでいます。

教員一覧

氏名	専門分野	氏名	専門分野
 講師 秋山 隆	彫刻	 准教授 永見文人	金属造形
 教授 伊東敏光	彫刻	 講師 中村 圭	視覚造形
 准教授 今村雅弘	日本画	 講師 野田睦美	染織造形
 准教授 ウォーゼン,チャールズ Worthen, Charles	彫刻	 助教 藤江竜太郎	立体造形
 准教授 海老 洋	日本画	 教授 堀 研*	油絵
 教授 鰐澤達夫	現代表現	 教授(学部長) 前川義春	彫刻
 教授 及川久男	視覚造形	 講師 松尾真由美	油絵
 准教授 大塚智嗣	漆造形	 教授(副学部長) 南 昌伸	金属造形
 教授 大矢英雄	油絵	 准教授 森永昌司	油絵
 准教授 笠原 浩	メディア造形	 准教授 柳 幸典	現代表現
 准教授 加治屋健司	美術史	 教授 吉井 章	油絵
 教授 倉内 啓	染織造形	 教授(芸術資料館長) 吉田幸弘	立体造形
 准教授 諏訪 敦	油絵	 教授 若山裕昭*	金属造形
 助教 土井満治	彫刻	 教授 藁谷 実	日本画
 教授 友安一成*	油絵	 助教 王 培	日本画
 教授 中嶋健明	メディア造形		

※印の教員は平成25年度末に退職の予定です。

創作工房・実習アトリエ一覧

●創作工房

メディア造形工房

CA+ラボラトリー

漆工房

織工房

プラスチック塗装工房

木材加工室

木彫工房

彫金工房

金属工房

石彫工房

鍛金・鍛造工房

金属加工室

3D工房

版画工房

染工房

テラコッタ窯場

視覚造形工房

CGラボラトリー

石膏デッサン室

フレスコ実習室

VRスタジオ

●実習アトリエ

日本画アトリエ

油絵アトリエ

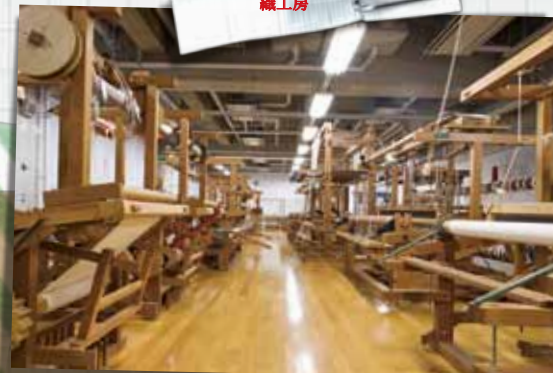
彫刻アトリエ

デザイン工芸実習室

VRスタジオ



織工房



鍛金・鍛造工房



石彫工房



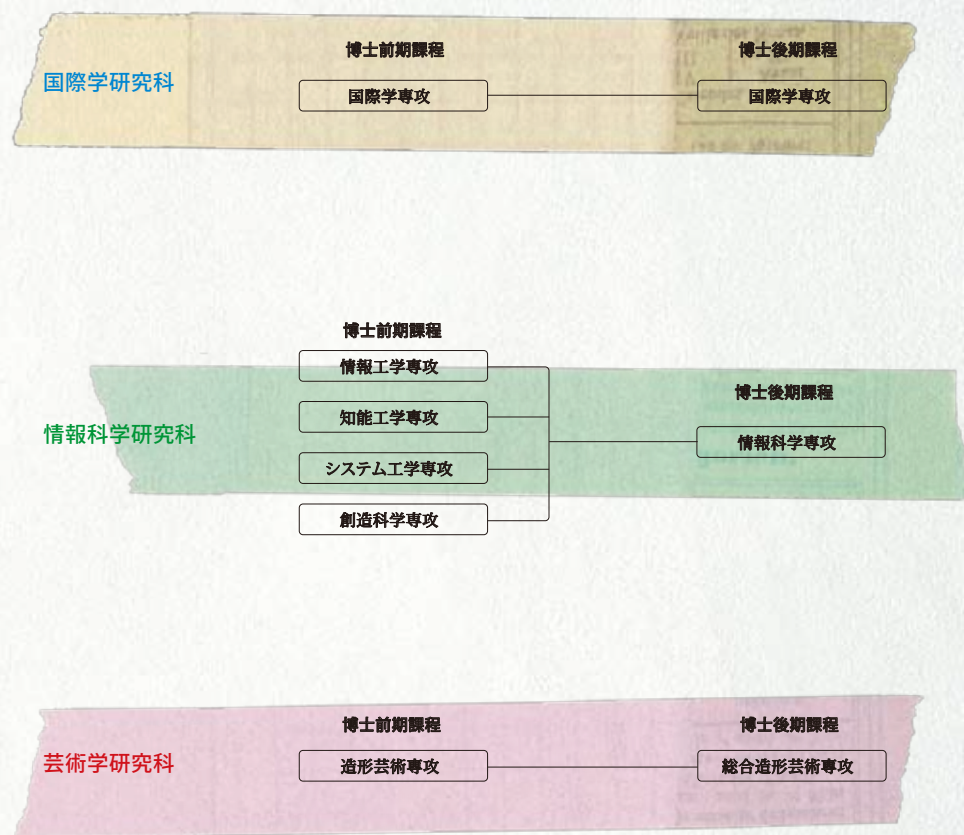
大学院

Graduate School

大学院組織図

自己の研究をより深め、視野・思考の幅を広げる大学院の研究

最先端の学問領域を究め、知性と感性と創造性を研ぐための学問の場である広島市立大学大学院。3つの研究科のそれぞれが、専門分野の高度な研究につながる授業科目群を設置し、学際的な知識を修得して調和のとれた人間形成を図る科目群「21世紀の人間と社会」を開設。社会の指導的役割を果たす能力と資質を育てていきます。



大学院での教育・研究

国際学研究科

国際研究の高度化と真の国際人の養成が国内外から強く求められている今。国際学研究科では、グローバルなテーマに多角的にアプローチできる実践的な知性と能力を極めることを目指して、国際性、学際性、実際性を重視した教育・研究を実施しています。

●博士前期課程

国際社会を構成し、動かしている、政治、法、経済、経営、文化、言語の諸側面のさまざまな機能と役割の分析・研究を通じて、国際社会が直面している問題の分析と解決に資するための教育・研究を行い、学際的な知見の蓄積と現実的な実践力の修得を目指します。また、「平和研究」に専門的に取り組み、学位を取得することもできます。

●博士後期課程

地球の荒廃と人類存亡の危機を人類共通の問題として考えなければならない今日。後期課程では、この逼迫した時代の要請に応えるために、国際社会の文化、政治、経済、教育、科学、産業等の諸分野において指導的役割を果たす専門職業人、高度で先端的な学際的な研究に携わる能力を備えた教育・研究者を育成します。

情報科学研究科

情報科学研究科は、21世紀の「情報技術」の先端的専門分野・情報科学と諸学問との学際分野において柔軟な発想と開発力で貢献する人材養成が目標。そのために、創造性、自立性を養う自主プロジェクト演習など、科学技術の高度化と多様化に対応したカリキュラムを編成しています。

●博士前期課程

情報科学に関する学理の探求と科学技術の発展を推進するとともに、情報科学に関する研究開発を担う研究者及び高度専門技術者を育成することを目的とし、総合的な分析力、企画力、判断力及び国際的視野を身につけた人材を養成します。

●博士後期課程

情報基盤のグローバル化、ボーダレス化に伴い、パラダイムシフトを予見し、先導するための国際的な視野と競争力を持つ高度な研究者・技術者の養成は、必要不可欠。そこで、高度研究開発能力の育成・向上と実践的課題解決能力の育成を目指した教育・研究に取り組んでいます。

芸術学研究科

高度な文化芸術の創造・発展に貢献することを理念とし、美術、デザイン、工芸に関する卓越した創作・研究能力を培い、地域文化振興と国際文化交流において指導的な役割を果たす、理論を踏まえた高度の専門性を有する人材の育成を目指しています。

●博士前期課程

伝統的な芸術の継承に取り組むと同時に、現代の視野に立って、新素材や新技法も修得しつつ、新たな文化芸術の発展・創造に貢献するために必要な教育を行います。芸術理論を修得し、芸術の社会的役割を深く認識した上で創作活動を行うことのできる人材を養成します。

●博士後期課程

各専攻・研究領域の基礎の探求を基に、それらを深化させるとともに、領域を超えた横断的な研究を行い、造形芸術の総合的研究を目指しています。幅広い表現能力を開発し、造形芸術の実践に歴史的・理論的研究を結び合わせる教育・研究を行っています。

広島平和研究所・

Hiroshima Peace Institute

附屬施設

Attached Facilities

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

1

100

広島平和研究所

●国際平和文化都市広島への「知」の拠点

世界初の核兵器による被爆を体験した「広島」の地に生まれた総合大学として、本学では、世界平和の創造・維持、地域社会の発展に貢献することを目指し、附置研究機関として広島平和研究所を設置し、平和に関する学術研究に取り組んでいます。

●核兵器の廃絶と世界平和の創造へ

被爆都市として世界に知られる「広島」。広島平和研究所は、その歴史を背景に広島市立大学に平成10年4月に開設されました。平和に関する学術研究を通じて、核兵器の廃絶に向けての役割を担うとともに、世界平和の創造・維持と地域社会の発展に貢献することを目的としています。

●平和の実践に向けた研究活動

広島平和研究所では、国内外の研究者や専門家の協力を得て、平和の実践に向けた研究活動を行っています。研究成果は、出版物、論文などで広く世界に発信します。

●学生、市民、そして世界への情報発信

プロジェクト研究のほか広島平和研究所の活動状況は、逐次ウェブサイトやニューズレターにより世界に向けて情報発信しています。また、「国際シンポジウム」や「連続市民講座」等も開催し、市民に研究成果を広く公開しています。本学においても、「広島・長崎講座」として開講している「平和と人権A(ヒロシマと国際平和)」「広島からの平和学:実践の方法」「平和インターンシップ」「平和研究Ⅰ/Ⅱ」「夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」「Advanced HIROSHIMA and PEACE」の各講座において、研究員が講義を担当しているほか、大学院国際学研究科において「現代軍縮・平和論」を担当するなど、当研究所の研究成果を教育にも活用しています。



広島平和研究所長 吉川 元
国際関係論、国際安全保障論、予防外交論



副所長 水本 和実
国際政治、国際関係、核軍縮、安全保障



教授 ガネサン・ナラヤナン
Ganesan, Narayanan
東南アジア政治、国際関係



教授 田中 利幸
戦争犯罪、戦争史



准教授 ジェイコブズ・ロバート
Jacobs, Robert A.
核兵器の歴史・文化



准教授 金 美景
社会学、北東アジア問題



准教授 永井 均
日本近現代史、日本・フィリピン関係史



講師 河上 暁弘
憲法学、地方自治論、平和学



講師 桐谷 多恵子
国際文化、戦後広島・長崎両市の復興史



講師 高橋 博子
アメリカ史、グローバル・ヒパクシャ



講師 竹本 真希子
ドイツ近現代史、平和思想・平和運動史

附属施設

◆ 附属図書館

附属図書館長 前田 香織（情報科学研究科教授）

図書約31万冊、雑誌約400誌、視聴覚資料約1,300タイトルをコンピュータで集中管理。必要な資料をスピーディーに手に入れることができます。館内には無線LAN環境が整備されており、Web情報や所蔵資料を活用しながら学習することもできます。自然光を取り入れた、気持ちの安らぐ空間設計も特徴。地域にも開放された図書館です。

◆ 語学センター

語学センター長 横山 知幸（国際学部教授）

各教室にCALL（コンピュータ支援語学学習）システムを備え、通訳訓練や翻訳といった授業だけでなく、Webを利用した自習形式の授業「CALL英語集中」の教室としても利用されています。自習室では、約3,700の視聴覚教材や各種語学雑誌、NHK各語学講座テキスト・CDが利用可能で、リアルタイムで外国テレビ放送を視聴できるなど、非常に充実した学習施設です。

◆ 情報処理センター

情報処理センター長 北村 俊明（情報科学研究科教授）

高性能な情報通信機器を備え、さまざまなネットワークサービスを提供しています。実習室にはパソコン約160台が設置され、1年生の必修科目である「一般情報処理」の教室や自習スペースとして活用されています。実習室以外でも無線LANが整備され、メールの利用やWeb閲覧、大学情報サービスが学内のあちこちで利用できます。その他、休講・補講情報が確認できるデジタルサイネージや、他大学の授業が受講可能となる遠隔教育設備も整備しています。

◆ 芸術資料館

芸術資料館長 吉田 幸弘（芸術学部教授）

教育・研究のための参考資料として、平山郁夫、大蔵克衛、野田弘志、淀井敏夫、イサム・ノグチ他、国内外の作家の作品を収蔵しています。また、研究成果としての作品群「光の肖像」シリーズ、国宝「平家納経」模写作品など、幅広い分野の収集を行っています。企画展や研究発表展の開催、国内外の美術館への作品貸出により、コレクションを一般に公開しています。学生は授業や展覧会でこれらの作品を鑑賞することにより自らの制作に生かし、創作の水準を上げるよう努力しています。

◆ 国際交流推進センター

国際交流推進センター長 神原 信幸（国際交流推進センター特任教授）

学生の海外留学派遣及び留学生受入に関わる企画・広報・実施・相談などのサービスの提供に加え、国際化の面から大学の教育や研究の活性化を広範にサポートする活動に取り組んでいます。また、グローバル人材育成に向けても、熱意のある学生を親身に応援する体制を充実させ、将来を切り拓いていこうとする学生を後押ししていきます。

❖ 社会連携センター

広島市立大学では、教育や研究だけでなく社会貢献にも積極的に取り組んでいます。その対象は、地域住民、地元企業、広島市をはじめとする行政機関などさまざまです。社会貢献活動の中心的役割を果たす「社会連携センター」は、大学と社会、人と人をつなぎ、国際、情報科学、芸術、平和のそれぞれの分野で活躍する教員や学生の成果を社会に還元するための取り組みを行っています。主な取組としては、産学連携・地域連携の推進、知的財産の管理と活用、学生の社会貢献活動の支援、公開講座などがあります。また、大学が丸となって取り組むべき社会貢献の課題は「プロジェクト研究」として位置づけ、その活動を支援、推進しています。

○ 社会連携センター長	竹澤 寿幸（情報科学研究科教授）
○ 連携推進室社会連携コーディネーター	野村 啓治（社会連携センター特任教授）
○ プロジェクト研究推進室	釘宮 章光（社会連携センター准教授）

社会連携センターが支援する産学連携・地域連携の取組事例

●研究成果の産業界への還元を通じた社会貢献

研究成果の社会還元を推進するため、企業等と連携した共同研究や技術相談を実施しています。

- リエゾンフェスタの開催
- 共同研究・受託研究の促進
- 企業等からの技術相談

●行政や市民団体との協働による社会貢献

地域住民や広島市と協力しながら地域の活性化を目指します。

- 行政課題解決への協力
- NPO、市民等との協働事業
- 生涯学習支援

●知的財産の管理と活用

知的財産の権利化、管理、技術移転を行います。

●プロジェクト研究

産業界への技術移転などにつながる研究や行政課題に対応した研究を通じ、研究成果の産業界・地域社会への還元を推進しています。

●公開講座の開催

市民を対象としたさまざまな公開講座を開催します。

- 一般市民向けの講座、中学・高校生向けのサマースクール、社会人向けの技能講座
- 教育ネットワーク中国との連携講座（シティカレッジ）

サテライトキャンパス（平成25年10月1日開設予定）

市民を対象にした公開講座や、学生と地域住民、企業及び行政との交流の場として活用できるサテライトキャンパスを広島市中心部（中区大手町平和ビル9階）に開設します。

平成24年度 公開講座

学部	区分	テーマ
国際学部	連続講座	災害を生き抜くー世界の人々の経験から私たちが学ぶことー ●アフリカ牧畜民の災害の経験 ●中国と日本の災害後の心のケア ●東日本大震災における難民による被災地支援
	市大英語 e ラーニング講座	リーディング・リスニング・文法プログラム スピーキングプログラム ライティングプログラム 小学校英語教育指導者養成プログラム 通訳ガイド養成プログラム
情報科学部	講演会	●スーパーコンピュータと科学技術の進歩 ●ホログラフィーによる3D原子イメージング
	連続講義	●コンピュータ情報検索最前線 ●空気の方で動く機械 ●人間社会ネットワークとコンピュータネットワーク ●見えないものを見てやろう！ー透明なものを見る顕微鏡ー
	自由研究	高校生による情報科学自由研究
芸術学部	一般向け講義	日本画、油絵、版画、彫刻、デザイン工芸
	中・高校生向けサマースクール	日本画、油絵、彫刻、デザイン工芸
	社会人向け工芸・版画技能講座	金工、染織、漆、版画

●シティカレッジ提供講座

「創作人間」

- 特撮技術と爆心地復元映像
- 広島銅蟲、継承の取組みから
- 生死の風の中で私がキャンパスに求めたもの
- 1970年代の美術を起点に語る

●学生による社会貢献型自主プロジェクト

学生が自主的に計画・実施する社会貢献のプロジェクトに対し、活動費の一部を助成しています。

平成24年度 学生による社会貢献型自主プロジェクト

テーマ	内容
学生による地域日本語教室への参加	沼田公民館における地域の外国人住民と学生の交流。地域国際交流会やふると祭りへの参加
学生団体「てくてく」による広島県内への避難者支援プロジェクト	東日本大震災、福島第一原子力発電所の事故による広島県内への避難者の生活再建、コミュニティづくり支援
あさがお-国を超えた地域貢献活動-	学生と留学生とのペアによる宮島観光プラン等の韓国人への提案とオリジナルガイドブックの作成
大型絵画共同制作 -広島市立高須小学校「お月見コンサート」会場装飾として-	高須小学校での「お月見コンサート」における芸術学部学生と同校児童による大型絵画の共同制作・展示
第6回 パソコン・スマートフォンなんでも相談室（初心者対象）	本学で学んだ情報科学に関する知識を元にしたパソコンに関する相談・指導、新しい利用方法の提案
ヒロシマピースキャンプの運営	8月6日の平和記念式典に参加する国内外の来訪者向けピースキャンプの運営
マーケティングの観点からの街づくりプロジェクト	「あさみなみまちづくりアイデアコンテスト」への参加を通じた地域と大学との連携、地域活性化の学習
安佐南区まつりへの参加	ダンス部による安佐南区民まつりへの参加



学部を超えた交流が生み出す、楽しく刺激的な時間

大学生活には、授業以外にも夢中になれる時間があります。

クラブやサークルなどの課外活動は「好き!」に全力で行方があるみたいです。

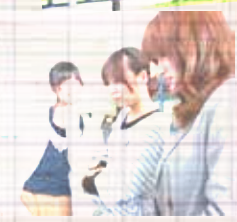
個性あふれる学部の仲間が集まれば、楽しい学反応が始まります。

得意分野を生かした役割分担が自然と出来上がって、いつの間にかスムーズに事が運んでいるなんてことも。

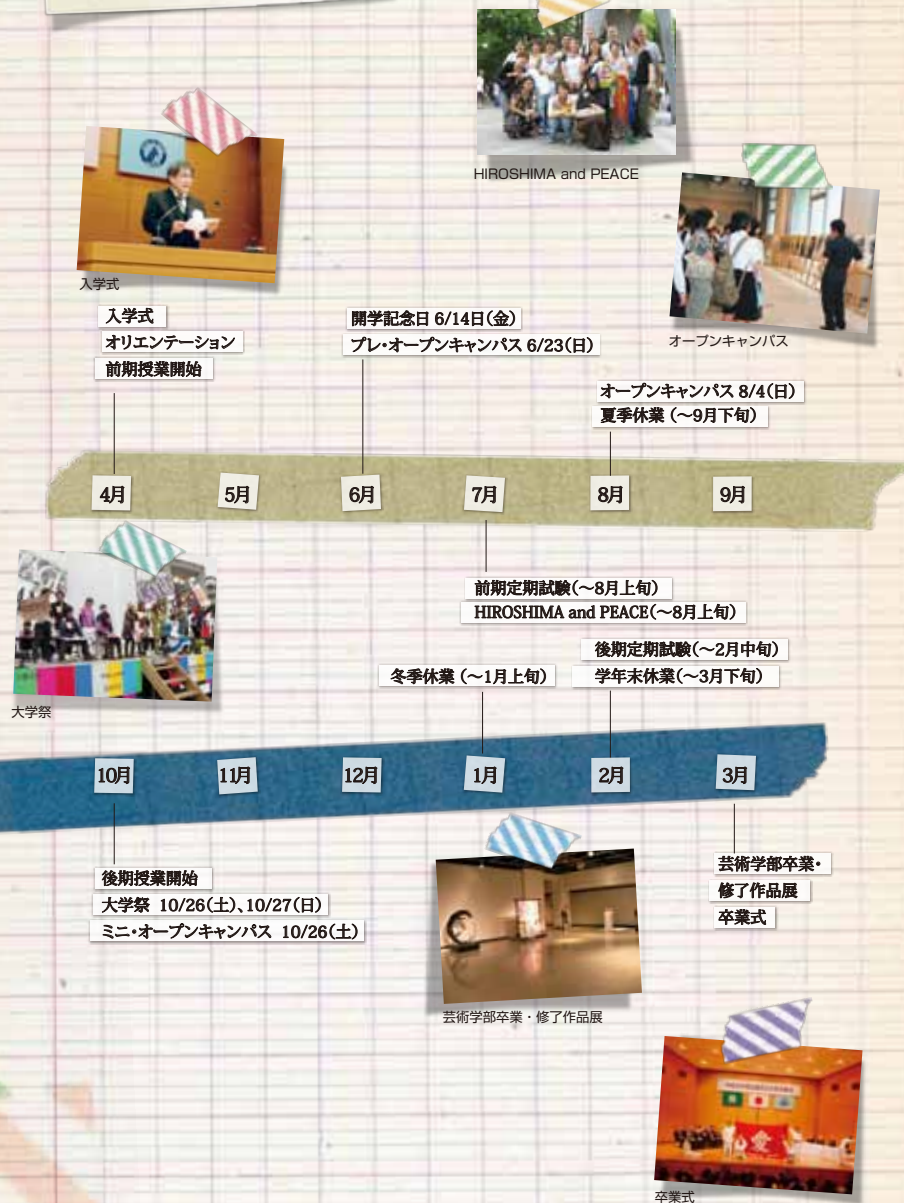
ジャンルを超えて認め合い、笑い合ったキズナは、一生の宝物になるはずです。

Campus Life

Var- dagar	helg- dagar		
5.22	6.26	0.01	0.05
5.08	6.08	27.50	0.00



年間スケジュール



大学生生活サポート

経済面をサポート

一定の要件で入学検定料や入学科、授業料の減免や授業料の徴収猶予を行っています。

特待生制度

2年次以上の学部学生を対象として成績優秀で、かつ他の学生の模範となる学生に対して一人当たり年額200,000円の奨学金を給付する特待生制度があります。この制度は、平成25年度に創設され、特待生の選考は、平成26年度から開始します。

奨学金制度

本学では「日本学生支援機構奨学金」をはじめ、自治体や民間団体などさまざまな奨学金を扱っています。日本学生支援機構奨学金は、大学に在学する優れた学生で経済的理由により修学に困難がある者に対して学費を貸与するもので、無利子の「第一種」と、有利子の「第二種」があります。どちらも、出願者の中から、学力、人物、家計、健康を総合的に判断して、本学が日本学生支援機構に推薦します。

住居・生活をサポート

キャンパス内に学生寮があり、自宅からの通学が困難な学生のために提供しています。学生寮は4棟からなり男女各48室の個室を整備しています。入居期間を2年間として毎年、男女各20名程度の新入生が入居しています。使用料は月額5,900円(共益費年額1,000円、光熱水費の実費は別途徴収)で、管理人も常駐していることから経済的で安心できる居住スペースとして人気があります。また、1階はバリアフリーとなっており、車椅子で生活されている方も安心して寮生活を過ごせます。入寮している学生同士の交流も盛んで各種イベントが企画されたり、外国人留学生も入寮していることから国際交流の場にもなっています。学生寮以外の住居についても、アパート、ワンルームマンション、下宿などの賃貸情報を提供できるように常時、住宅情報を整備し、学生の皆さんがいつでも閲覧できるようにしています。

エンジョイをサポート

クラブ・サークル活動費や備品整備費、大学祭などの学生主催イベント経費をはじめ、学生が企画・参加して留学生や外国人と交流する国際交流事業、自主研究活動や展覧会などを行うための経費を大学後援会から助成しています。また、ボランティア情報コーナーを設置してボランティア情報も提供。毎年6月は市内一円で行われるごみゼロ・クリーンウォークに参加したり、秋には通学路クリーンキャンペーンに参加するなど、幅広い活動を行っています。その他、サッカーボールやキャンプ・レジャー用品などの無料貸出も行っています。

心身の健康・安心をサポート

学生の「いやしの場」にもなっている保健管理室(保健室・相談室)では、ケガや病気の処置はもちろんのこと、健康相談も行っています。また、心配事や悩みを聞いたり、落ち込んだ時の支えとなる、あるいは「自分探し」を手伝う学生相談、楽しくスポーツができるようにトレーニング方法などを体育教員がアドバイスするスポーツ相談も実施しています。さらに通学中や大学内、クラブ活動中にケガした時などのために傷害保険・賠償責任保険への加入や、個人ロッカーの無料貸出など、快適な学生生活を過ごせるように配慮しています。

クラブ・サークル

●体育系

【クラブ】

サッカー部／ラグビー部／硬式テニス部／軟式野球部／トライアスロン部／剣道部／男子バスケットボール部／弓道部／アーチェリー部／バドミントン部／男子バレーボール部／陸上競技部／ワンダーフォーゲル部／水泳部／女子バレーボール部／合気道部／ダンス部／女子バスケットボール部／卓球部／T.A.S(ソフトテニス)／MACHADO(サーフィン&スノーボード)／スコット団(カーブ応援サークル)／少林寺拳法部

【サークル】

FC海人(サッカー)／TENSION(硬式テニス)／NIT(フットサル)／Olive(フットサル等)

●文化系

【クラブ】

茶道部表千家／裏千家茶道部／自主制作映画研究会／Music Art Club(軽音楽)／陶芸部／マンドリン・ギター部／吹奏楽部／演劇部／Table Game 研究会／上田宗箇流茶道部／電子音楽部／CREATIVE(創作活動)／マスコミ研究会／写真部／ねっこ広島(環境ボランティア)／石膏デッサン研究会／Pret-a-Porter(ファッション)／S2(平和活動)／にっこり(韓国文化)／Sign(手話愛好会)／熊猫(パンダ)会(中国語)／落語研究会 落花生

【サークル】

天文研究会／アカペラサークルregalo／HIF(国際交流)／公募倶楽部

●大学祭実行委員会

秋に開催する大学祭の企画・運営をする組織です。

Campus Map



1 本館・国際交流推進センター 2 講堂 3 図書館・語学センター棟 4 学生会館 5 エネルギーセンター 6 芸術資料館

7 芸術学部棟 8 工房棟 9 講義棟 10 国際学部棟 11 情報処理センター 12 情報科学部棟 13 情報科学部棟別館・

社会連携センター・広島平和研究所 14 体育館 15 グラウンド 16 トラック・フィールド

学生会館



学生食堂やクラブハウス、売店、ATMなど、学生生活に欠かせない機能がそろっています。中でも、学生食堂は、吹き抜けの天井から太陽の光が射し込む心地よい空間です。ランチメニューも充実しており、カフェテリアでランチしたり、お茶したり。学生たちの交流の場となっています。

グラウンド



全天候型のテニスコート4面と、野球、サッカーなどが可能な運動場があります。サークル、クラブ活動以外でも、利用することができます。

保健管理室（保健室・相談室）



心身の健康上の悩みや相談に応じ、学生の「疾病の予防」と「健康相談」、「カウンセリング」を中心に健康の維持増進を図ります。

体育館



バスケットコートが2面使用できるアリーナや、本格的なトレーニングルーム等を備えた施設です。授業やクラブ、サークル活動のほかにも、多目的な利用が可能です。

学生寮

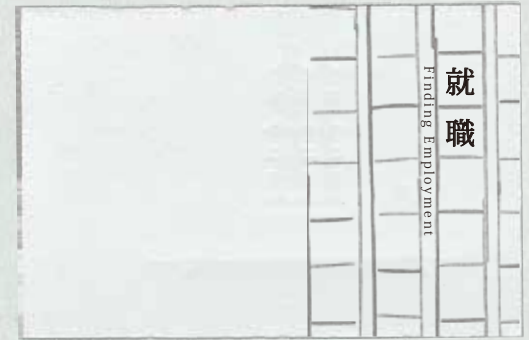


キャンパス内にある学生寮の1階はバリアフリーになっており、車イスの方でも安心して利用できます。他県など遠方からの入学生に対して安価な住居を提供しています。1・2年生の男女、100名弱が入居して共同生活を営んでいます。外国人留学生も入居しており、国際交流の場になっています。

講堂



壁面レリーフや舞台の観覧などに芸術学部教員たちの作品を生かした、本学ならではの施設です。大小のホールと、大型スクリーンや国際会議も可能な同時通訳設備と、機能も充実しています。



就職・キャリアサポート

個々の夢や希望を実現するために、全力でサポートします。

知識や技術の修得と人間形成を図り、社会に役立つ人材を送り出すことが大学の大きな役割です。本学は、開学以来、高い水準の就職率を維持していますが、これは本学の役割が社会に認知されている結果です。4年間を通して、学生個々の進路をサポートしています。

進路支援の2つのポイント

きめ細かな個別支援

教員と学生の距離が近い本学は、就職支援でもその環境が生かされたきめ細かなサポートを実現しています。就職活動期だけではなく、早い時期から進路相談を行い、志望や適性に沿って一人ひとりに合った指導・支援を行っています。

大学をあげての支援

本学の就職支援は、全学をあげて行われています。毎年、大学説明会を開催して、企業の採用担当者に学生の意欲や資質をPRするほか、学内において、合同企業セミナーを開催し、学生が多数の企業の方と身近に話ができる機会を設けています。

充実した進路・就職ガイダンス・セミナー

就職活動のスケジュールや方法など総論的なものから実践的なものまで、全学年対象として、進路・就職ガイダンス・セミナーを開講しています。一例をあげると、学部別の進学・就職説明会、就職・キャリアガイダンス、面接・筆記試験対策講座等就職支援セミナー、キャリア・業界研究セミナーなどです。これらのガイダンス・セミナーのほか、企業見学や公務員試験対策、教員採用試験の実践指導なども、就職対策としてきめ細かく行っています。

インターンシップ

企業などで実習体験する「インターンシップ」をキャリア形成の柱の一つに位置づけています。単に体験するだけでなく、実習と事前セミナーや報告会とを組み合わせ、実になるものを目指し、インターンシップ研修の充実や協力企業の開拓にも取り組んでいます。また、広島市教育委員会と連携して、教員志望者を対象とした広島市立学校での実習体験活動を行っています。

キャリア形成支援への取組

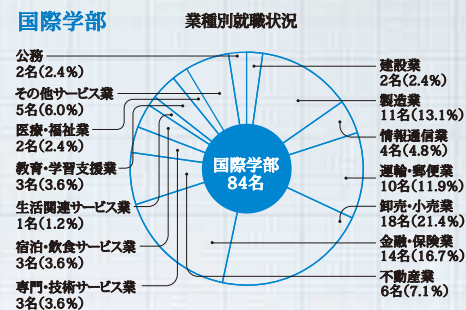
就職支援・対策に加え、キャリア形成を支援するための授業科目の新設など、入学後早期からの系統的な「キャリア形成プログラム」の構築・実施に取り組んでいます。

就職データ

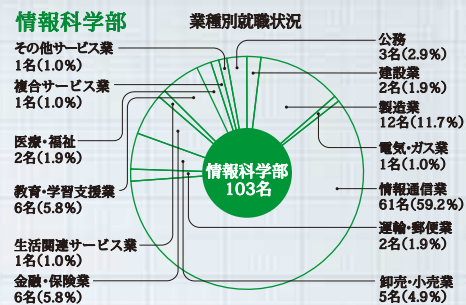
平成25年3月大学卒業者の学部別就職状況

区分	国際学部	情報科学部	芸術学部	合計
卒業生(名)	97	199	79	375
就職希望者(名)A	87	111	29	227
就職決定者(名)B	84	103	28	215
就職決定率 B/A×100	96.6	92.8	96.6	94.7
(参考)進学者(名)	1	72	25	98

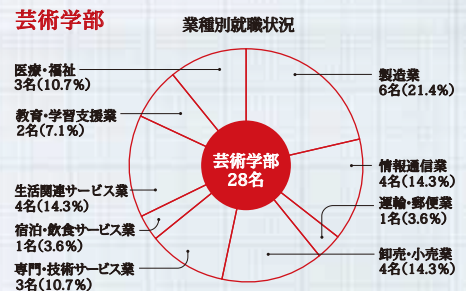
国際学部



情報科学部



芸術学部



就職先・進路(国際学部)

国際学部卒業生は、国際機関、企業、公務員、教員、国内外の大学院など、幅広い進路で活躍しています。

企業に就職

各プログラムから提供される専門科目、そしてそれらを複数のプログラムから選択して学修することにより、専門性と幅広い視野を兼ね備えた国際学部の卒業生は、国内外の幅広い企業で活躍しています。

- | | | | |
|--------------------|-------------------|-----------------|---------------------|
| ●アイホン㈱ | ●JFEスチール㈱ | ●日産自動車㈱ | ●㈱フジクラ |
| ●アサヒビール㈱ | ●㈱JTB中国四国 | ●日通商事㈱ | ●富士ゼロックス㈱ |
| ●㈱アシックス | ●㈱JALグランドサービス | ●日本通運㈱ | ●富士通㈱ |
| ●味の素㈱ | ●重慶長安鈴木汽車有限公司 | ●日本ペイント㈱ | ●ブリストルマイヤーズ㈱ |
| ●イオン㈱ | ●新関西国際空港㈱ | ●日本アイ・ビー・エム㈱ | ●㈱プリンスホテル |
| ●㈱石崎本店 | ●㈱新瀬社 | ●日本銀行 | ●ホテル日航東京 |
| ●岩谷産業㈱ | ●新日鐵住金㈱ | ●㈱日本国際協力センター | ●㈱マイナビ |
| ●㈱ウッドワン | ●積水ハウス㈱ | ●日本食研ホールディングス㈱ | ●マツダ㈱ |
| ●㈱エイチ・アイ・エス | ●セコム㈱ | ●㈱日本政策投資銀行 | ●丸善㈱ |
| ●エーザイ㈱ | ●全日本空輸㈱(ANA) | ●日本生命保険(相) | ●㈱ミカサ |
| ●SMBC日興証券㈱ | ●ソニー損害保険㈱ | ●㈱日本テレビエンタープライズ | ●ミズノ㈱ |
| ●㈱エヌ・ティ・ティ・ドコモ | ●㈱大創産業 | ●日本マクドナルド㈱ | ●三井住友海上火災保険㈱ |
| ●㈱エネルギー・コミュニケーションズ | ●大日本スクリーン製造㈱ | ●日本郵便㈱ | ●㈱三井住友銀行 |
| ●オイレス工業㈱ | ●大陽日酸㈱ | ●㈱日本旅行 | ●㈱三越伊勢丹 |
| ●大塚製薬㈱ | ●大和ハウス工業㈱ | ●野村証券㈱ | ●三菱重工業㈱ |
| ●オタフクソース㈱ | ●高砂熱学工業㈱ | ●バイエル薬品㈱ | ●三菱UFJモルガン・スタンレー証券㈱ |
| ●オリックス㈱ | ●武田薬品工業㈱ | ●パナソニック電気㈱ | ●㈱明治 |
| ●キューピー㈱ | ●田中食品㈱ | ●バンドー化学㈱ | ●明治安田生命保険(相) |
| ●キリンビール㈱ | ●㈱中国新聞社 | ●広島アルミニウム工業㈱ | ●㈱もみじ銀行 |
| ●㈱クボタ | ●中国電力㈱ | ●広島エフエム放送㈱ | ●山崎製パン㈱ |
| ●呉信用金庫 | ●㈱中電工 | ●広島ガス㈱ | ●ヤマト運輸㈱ |
| ●KDDI㈱ | ●ツネイシホールディングス㈱ | ●㈱広島銀行 | ●㈱リクルートホールディングス |
| ●コカ・コーラウエスト㈱ | ●東海旅客鉄道㈱(JR東海) | ●広島信用金庫 | ●㈱リコー |
| ●境港海陸運送㈱ | ●東京海上日動火災保険㈱ | ●広島電鉄㈱ | ●㈱良品計画 |
| ●サタケ | ●徳島バス㈱ | ●㈱広島東洋カープ | ●リョービ㈱ |
| ●山九㈱ | ●TOTO㈱ | ●広島放送㈱ | ●㈱ワールド |
| ●㈱サンフレッチェ広島 | ●西日本電信電話㈱(NTT西日本) | ●㈱ファーストリテイリング | |

(五十音順、企業総数741社のうちの抜粋)

大学院に進学

より専門的な学修や高度な研究を目指し、国際学部卒業生は大学院に進学しています。修士課程を修了し、企業、国際機関、教育機関などで多くの卒業生が活躍しているほか、博士課程へ進学して大学教員として活躍している卒業生も輩出しています。

公務員・教員

広島を中心に、公務員や教員として活躍している卒業生も多数輩出しています。主な進路は、広島県内では広島市、広島市教員、広島市消防局、廿日市市、東広島市、福山市、三次市、三原市、広島県、広島県警察本部、広島県教員、また、広島県外では岡山県、倉敷市、山口県岩国市、東京都教員、香川県、警視庁、外務省、厚生労働省、国土交通省、防衛省、法務省など、多岐にわたっています。

Voices (卒業生)



留学とゼミで学んだ「伝える力」が
今の自分を支えている

金本 麻里

在マダガスカル日本国大使館 勤務
(平成23年3月 国際学部国際学科 卒業)

現在、外交官の方々の業務が円滑に進むようサポートする仕事をしています。仕事内容は多岐にわたりますが、フランス語を用いた現地職員への指示や現地業者との調整等が主な仕事のため、自分の意向を相手にいかに的確に伝えられるかが求められます。この仕事を通して痛感することは、「自分の言葉」で話すことの重要性です。語学力に関係なく、自分が内容を正確に理解していないうちは相手に説明しても伝わりません。フランスのオルレアン大学へ交換留学をした際には、自己主張が求められる環境の中、限られた語彙力で自分の意見を伝える努力を重ねました。また、専攻した会計学のゼミでは、会計学を学ぶだけでなく、物事を論理的に考え、説明するために試行錯誤しました。これらの経験が今の自分を支えていると強く感じています。



グローバルな視点で物事を考えたことが
現在の仕事につながっている

大門 仁

バンドー化学株式会社 勤務
(平成20年3月 国際学部国際学科 卒業)

現在、バンドー化学株式会社シंगाポール現地法人に赴任しており、主に東南アジア地域での営業担当として、各国の製品エンドユーザーや代理店などを訪問して営業活動を行っています。在学時には国際経営論のゼミに所属し、さまざまな国の企業のケーススタディーを通じて経営理論の基礎を学習しました。その中で、グローバル(グローバル+ローカル)な視点で物事を考え、それを形にして企業が社会に付加価値を与えていく重要性を認識したことは、現在の業務につながっていると思います。また、3年生の後期より、交換留学生として韓国の西京大学で1年間過ごしました。そこで異文化の環境下での人とのつながりの大切さ、生活の楽しさや難しさを学んだことが、今の海外生活の基盤になっています。

就職先・進路(情報科学部)

情報科学部卒業後は、大きく分けて2つの進路があります。会社員、公務員、教員として、社会に巣立つコースと、さらに専門知識・技術を磨くため大学院に進学するコースです。

企業に就職

今、最も注目されている情報分野の知識や技術を修得した情報科学部の学生は、卒業後、情報通信、ソフトウェア、情報機器製造、コンピュータなど、時代の最先端の企業で活躍しています。これまで、次のような企業に就職しています。

- | | | |
|---------------------|-----------------------|----------------|
| ●例ウッドワン | ●例島津製作所 | ●例日立中国ソリューションズ |
| ●例エディオンWEST | ●シャープ(例) | ●例広島銀行 |
| ●日本電気(例)(NEC) | ●セイコーエプソン(例) | ●広島電鉄(例) |
| ●NECシステムテクノロジ(例) | ●ソニー(例) | ●例広島東洋カープ |
| ●例エヌ・ティ・ティ・データ | ●大日本印刷(例) | ●富士ゼロックス(例) |
| ●例エヌ・ティ・ティ・ドコモ | ●中国電力(例) | ●富士通(例) |
| ●例エヌ・ティ・ティ・ドコモ中国 | ●例中電工 | ●例富士通中国システムズ |
| ●西日本電信電話(例)(NTT西日本) | ●例テレビ新広島 | ●富士通テン(例) |
| ●例エネルギー・コミュニケーションズ | ●例デンソー | ●船井電機(例) |
| ●沖電気工業(例) | ●例東芝 | ●本田技研工業(例) |
| ●オムロン(例) | ●凸版印刷(例) | ●マツダ(例) |
| ●オリンパス(例) | ●日産自動車(例) | ●三菱重工(例) |
| ●キャノン(例) | ●日本アイ・ピー・エム(例) | ●野便事業(例) |
| ●例熊平製作所 | ●日本アイピーエム中国ソリューション(例) | ●横河電機 |
| ●KDDI (例) | ●例野村総合研究所 | ●例リコー |
| ●例コア中四国カンパニー | ●パナソニック(例) | ●ローム(例) |
| ●例サタケ | ●パナソニックアドバンストテクノロジ(例) | |
| ●東海旅客鉄道(例)(JR東海) | ●例日立製作所 | |
| ●西日本旅客鉄道(例)(JR西日本) | ●例日立ソリューションズ | |

(五十音順、企業総数約850社のうちの抜粋)

大学院に進学

情報科学部の卒業生のうち、例年約4割の学生が本学の大学院に進学しています。また、他大学の大学院に進学する学生もいます。これまで、筑波大学、東京工業大学、電気通信大学、長岡科学技術大学、静岡大学、名古屋大学、北陸先端科学技術大学院大学、奈良先端科学技術大学院大学、京都大学、神戸大学、広島大学、九州大学などの大学院に進学しています。

公務員・教員

一般企業のほか、公務員や教員として活躍している卒業生もいます。これまでの主な進路は、広島市、広島市教員、広島県、広島県警察本部、大阪府警察本部、警察庁中国管区警察局、国土交通省中国地方整備局、財務省造幣局、防衛省海上自衛隊、防衛省航空自衛隊、東京消防庁、神奈川県教員などです。

Voices (卒業生)



学生時代に身に付けた積極生性が
現在の仕事に生きている

名越 隼人

富士通株式会社

モバイルフォン事業本部 先行開発統括部
ヒューマンセントリックエンジン開発部 勤務

(平成24年3月 情報科学研究科 博士前期課程 システム工学専攻 修了)

私は、モバイルフォン事業本部先行開発統括部に所属しています。現在は、スマートフォンに搭載する新しい技術の開発に携わっています。私が所属する先行開発統括部は、自社に数ある開発部隊の中でも他社との差異化技術の開発を担っています。大学時代には、研究活動を通じて学会や国際会議、研究紹介イベントなどに積極的に参加することで数多くの方と議論してきました。私の部署では、新しい技術開発をするための社内での打ち合わせや、直接お客様先に向いて、お客様と一緒に打ち合わせをする機会が数多くあります。実際にそのような場面では新人だからというのは全く通用せず、どんどん意見を求められます。私は自分のアイデアや意見を積極的に発言していますが、これには大学院での貴重な経験が生かされていると実感しています。



現在の研究開発に必要なベースは
大学で学んだことにある

羽田 隆二

株式会社 東芝

半導体研究開発センター 勤務

(平成19年3月 情報科学研究科 博士前期課程 情報工学専攻 修了)

現在、次世代画像処理LSIの研究開発に従事しており、低消費電力かつ小面積な高性能LSIの開発を目指しています。高性能LSIを実現するためには、コンピュータの仕組みから、ソフトウェア、ハードウェアにいたるまで、幅広い知識やスキルが必要です。このような研究開発に必要なベースは大学で学んだことにあります。大学では、情報工学を専攻し、所属研究室では、ソフトウェア及びハードウェアを効率良く動作させるにはどうすればよいか、というテーマでソフトウェアとハードウェアの境界ともいえるコンパイラの研究に従事しました。また、学会や見本市出展などの学外活動では、他大学や企業とのディスカッションなどを通じて、より最先端の研究がしたいという意欲を持つようになったことが、今につながっていると感じています。

就職先・進路(芸術学部)

芸術学部で修得した知識と技術を生かして、さまざまなクリエイティブの現場で活躍しています。
また、さらなる表現を追究し、進学、留学、そしてアーティストへ。

企業に就職

ものを創り、その意味を伝える。芸術学部で培ったスキルと感性は、“今”という時代だからこそ、さまざまな業種で求められています。
自分の力を示す、あらゆる可能性がそこにはあります。

- | | | |
|--------------------|-----------------------|-------------|
| ● ㈱アクタス | ● ㈱ステージユニオン広島 | ● 任天堂㈱ |
| ● 朝日精版印刷㈱ | ● ㈱スペース | ● パナソニック電工㈱ |
| ● 六吹デザイン専門学校 | ● 住友スリーエム㈱ | ● 浜田市立石正美術館 |
| ● ㈱ウッドワン | ● 専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ | ● ㈱ハル研究所 |
| ● ㈱VDA | ● SOLALA.Co.Ltd | ● ㈱ハルラボラトリー |
| ● かめや釣具㈱ | ● ㈱体育社 | ● パンビ㈱ |
| ● 川崎重工業㈱ | ● ㈱中国博報堂 | ● 東原産業㈱ |
| ● TBカワシマ㈱ | ● ㈱TSSソフトウェア | ● 広島県教育委員会 |
| ● キヤノンマーケティングジャパン㈱ | ● ㈱TSSプロダクション | ● 広島市教育委員会 |
| ● 九州大日本印刷㈱ | ● ㈱デザイン総研広島 | ● ㈱フォーナインズ |
| ● ㈱呉竹 | ● ㈱デジタルイズ | ● ㈱プレーンセンター |
| ● ㈱溪水社 | ● ㈱テレビ朝日クリエイト | ● ㈱ボックスインク |
| ● ㈱研創 | ● テレビ東京ブロードバンド㈱ | ● ㈱ポーラ |
| ● ㈱幻生社 | ● ㈱電通 | ● ㈱ポニーキャニオン |
| ● コクヨ中国販売㈱ | ● ㈱東急ハンズ | ● ㈱ホロンクリエイト |
| ● ㈱コトブキ | ● ㈱トッパンアイデアセンター西日本 | ● ㈱ホンダ技術研究所 |
| ● ㈱心石工芸 | ● トヨタ紡織㈱ | ● マツダ㈱ |
| ● ㈱サンライズ | ● トライボッド・デザイン㈱ | ● モリサワ文研㈱ |
| ● ㈱資生堂 | ● ㈱ニシキプリント | ● ㈱ライオン事務器 |
| ● ㈱スタジオブラセボ | ● 西日本印刷㈱ | ● YKK AP㈱ |

(五十音順、企業総数約260社のうちの抜粋)

大学院に進学

芸術学部の卒業生のうち、例年約4割の学生が、自己の表現を追求し、探求するために本学の大学院に進学しています。また、各々の専門性を高めるため、国内や海外の大学の大学院に進学する学生もいます。さらに、より高度な研究を目指して修士課程を修了し、作家、クリエイターやデザイナー、キュレーター等として活躍する卒業生を輩出しています。

創作活動・美術教育

学生たちの多くは、作家やクリエイターを目指して作品制作に励んでいます。国内の公募展や、国際的コンペティションなどで数多くの入賞実績を数え、その活躍は多方面のメディアに取り上げられています。また、個展やグループ展を開催するなど活躍の場を広げたり、新たな創作環境を求め海外に活躍の場を展開する卒業生も少なくありません。また、大学で受けた教育経験を生かして、自らも教育の現場に立ち美術指導の教員となる卒業生も数多くいます。

Voices (卒業生)



大学で培った多角的な視点や伝達能力は
大きな財産になっている

塚本 康博

株式会社資生堂 勤務

(平成20年3月 芸術学研究科 博士前期課程 造形計画専攻 修了)

私は、株式会社資生堂宣伝制作部に所属し、パッケージデザイナーとして国内外の資生堂商品のパッケージデザインに携わっています。デザインを進める上で必要な多角的にモノゴトをみることの大切さはもちろん、その気づきを展開し具現化する造形力、生み出したものを人に伝えるプレゼンテーション力といったトータルでの表現力は在学中に培ったもので、今の私の大切な財産になっています。過去の偉大な先輩たちが育ててきた資生堂の文化や精神を次の時代にどう表現するか、次の時代の人たちのライフスタイルや、そこに存在する化粧品はどのようなものなのか。商品をしてすべてを語らせるべく、飽くなき美の追求を胸に、性別を越えて人のココロの琴線に響くものを作り続けていきたいと考えています。



卒業制作に精一杯向き合った経験が
現在の私の土台となっている

野原 邦彦

木彫作家

(平成19年3月 芸術学研究科 博士前期課程 彫刻専攻 修了)

大学院を修了後、マネキン会社に就職し、マネキンの原型師として働く日々の傍ら、自身の創作活動を続ける日々を過ごしました。就職してから3年間は、大学の彫塑実習で培った人体構造の把握や、物の持つ空間を認識する能力を生かしながら、新たに製品として完成度の高いものを仕上げることの重要性を学びました。そんな中、ギャラリーでのグループ展やコンペティション等を通して少しずつ作品を認めていただけるようになり、現在は自身の作品制作を生活の中心に置き、個展や海外でのアートフェアを中心に木彫作家として活動をしています。大学生生活で卒業制作に向き合い、1年という時間を使って精一杯の制作をした、その成果が土台となり、現在の私があります。いつまでも初心を忘れず、自分が納得のいく作品づくりをしていきたいです。

ウェブサイト紹介



トップページ

本学に関する最新の情報を見ることができます。ウェブサイトは、随時更新しています。

大学の授業や、大学院についてもっと知りたい方はこちら。

オープンキャンパスの情報など、大学の最新情報を見ることができます。

入学に関する大事な情報を随時掲載しています。まずはこちらをクリック。



今週の展覧会

本学の学生、教員や卒業生が
開催する展覧会の情報につい
て知ることができます。

メディアで見る市大

本学に関連した情報は、新聞、テレビなどさまざまなメディアを通じて発信されています。紹介された本学関連の主なニュース項目を月ごとにまとめてお知らせします。

背景は毎月変更しています。季節を感じるデザインもぜひお楽しみください。



キャンパスライフ

大学生活についてもっと知りたい方はこちらをご覧ください。



課外活動

クラブ・サークルに関する情報
を紹介しています。

大学紹介

大学の概要や基礎データ、広報に関する情報などを掲載しています。



Voices

(在學生・卒業生紹介)

本学の学生や卒業生の紹介
 「Voices」です。ロンダイインタ
 ビューなど、ウェブサイトなら
 ではの情報が満載です。

携帯電話からもご覧いただけます。
<http://m.hiroshima-cu.ac.jp/>



入試情報

募集人員

学 部	学科・専攻	入学定員	募集人員					
			一般入試		特別入試			
			前期日程	後期日程	推薦入試 市内公募・全国公募	自己推薦 入試	外国人留学生入試 ※(注2)参照	
国際学部	国際学科	100	60	20	10	10	—	若干名
情報科学部 ※(注1)参照	情報工学科	210	130	40	20	20	—	若干名
	知能工学科							
	システム工学科							
	医用情報科学科							
芸術学部	美術学科	日本画専攻	10	—	10	—	—	若干名
		油絵専攻	20	20	—			若干名
		彫刻専攻	10	—	7			若干名
		デザイン工芸学科	40	40	—			若干名
	計		80	60	17			若干名

注1)情報科学部の募集は学部一括で行い、学科への配属(情報工学科・知能工学科・システム工学科定員各60名、医用情報科学科定員30名)は2年次開始時に行います。
注2)外国人留学生入試の募集人員「若干名」は、一般入試の募集人員に含まれます。

試験日程

	出願期間	個別学力検査等期日	合格発表
推薦入試 (国際学部・情報科学部のみ)	平成25年11月1日(金)～11月7日(木)	平成25年11月23日(土)	平成25年12月3日(火)
自己推薦入試 (芸術学部 美術学科 彫刻専攻のみ)	平成25年11月1日(金)～11月7日(木)	平成25年11月23日(土)	平成25年12月3日(火)
一般入試前期日程	平成26年1月27日(月)～ 2月5日(水)	平成26年2月25日(火) (芸術学部は下表の日程)	平成26年3月7日(金)
一般入試後期日程		平成26年3月12日(水) (芸術学部は下表の日程)	平成26年3月21日(金)
学科・専攻		個別学力検査等の日程	合格発表
美術学科	日本画専攻	(実技)平成26年3月12日(水)～3月15日(土)	平成26年3月21日(金)
	油絵専攻	(実技)平成26年2月25日(火)～2月28日(金)	平成26年3月7日(金)
	彫刻専攻	(実技)平成26年3月12日(水)～3月14日(金)	平成26年3月21日(金)
デザイン工芸学科		(実技)平成26年2月25日(火)～2月27日(木)	平成26年3月7日(金)

(注)外国人留学生入試の日程は、国際学部・情報科学部については一般入試前期日程と同じです。芸術学部については、学科・専攻ごとの一般入試日程と同じです。

入学科・授業料 ※金額は、平成25年4月現在のものです。料金改定が行われた場合には、改定後の料金が適用されます。

- ・入学料(入学手続時に支払い) 広島市内の者 282,000円 左記以外の者 423,000円
・授業料(4月と10月に半期分を支払い) 年額 535,800円

入試の実施状況(平成25年度)

学 部	学科・専攻	試験区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
国際学部	国際学科	推薦入試(市内公募)	10	13	13	8	1.6	
		推薦入試(全国公募)	10	36	36	14	2.6	
		前期日程	60	260	243	74	3.3	
		後期日程	20	266	132	25	5.3	
		外国人留学生入試	若干名	11	9	6	1.5	
情報科学部	情報工学科 知能工学科 システム工学科 医用情報科学科	推薦入試(市内公募)	20	37	37	24	1.5	
		推薦入試(全国公募)	20	65	65	25	2.6	
		前期日程	130	559	516	152	3.4	
		後期日程	40	651	293	44	6.7	
		外国人留学生入試	若干名	7	4	2	2.0	
芸術学部	美術学科	日本画専攻	後期日程	10	46	38	13	2.9
		油絵専攻	前期日程	20	46	43	24	1.8
		彫刻専攻	自己推薦入試	3	15	15	4	3.8
			後期日程	7	18	17	8	2.1
	デザイン工芸学科	前期日程	40	136	132	50	2.6	
	※各学科・専攻		外国人留学生入試	若干名	1	0	0	—

試験教科等

【一般入試】

学部・学科・専攻		学力検査等区分	大学入試センター試験の利用教科等	個別学力検査等	
国際学部 国際学科		前 期	「国」「地歴又は公民」 「数」「理」から2教科と「外」 〔3教科3科目〕	小論文	
		後 期		総合問題	
情報科学部 情報工学科 知能工学科 システム工学科 医用情報科学科		前 期	「国」「数(2科目)」「理」「外」 〔4教科5科目〕	数、物理か 化学(選択)、英	
		後 期		「数(2科目)」「理(物)」、「外(英)」 〔3教科4科目〕	数
芸術学部	美術学科	日本画専攻	後 期	「国」「地歴」「公民」「数」「理」から 2教科と「外」 〔3教科3科目〕	実技検査
		油絵専攻	前 期		実技検査
		彫刻専攻	後 期		実技検査
	デザイン工芸学科		前 期		実技検査

注)詳細及び推薦入試・自己推薦入試・外国人留学生入試については、各学生募集要項でご確認ください。

学生募集要項の請求方法

自己推薦入試学生募集要項は平成25年7月下旬に、推薦入試学生募集要項は平成25年9月上旬に、一般入試学生募集要項及び外国人留学生入試学生募集要項は、平成25年11月下旬に発表する予定です。

① テレメールを利用して請求

携帯電話・スマートフォンで右のバーコードを読み取り、テレメールにアクセスしてください。



② 大学情報センターの「モバっちゅ」を利用して請求

携帯電話・スマートフォンで右のバーコードを読み取り、モバっちゅにアクセスしてください。



◎その他の請求方法については、本学ウェブサイトの「資料請求」をご覧ください。



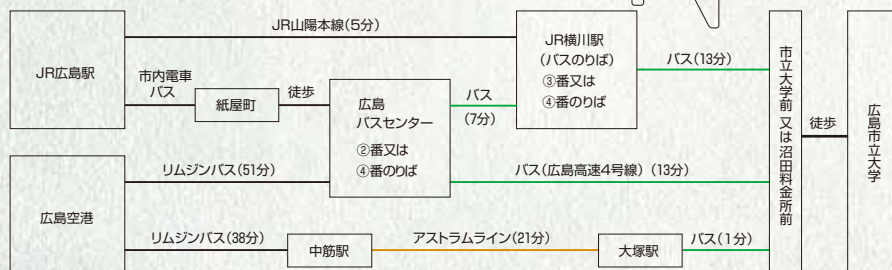






This map illustrates the location of Hiroshima University and its proximity to various transportation hubs and landmarks. Key features include:

- Landmarks and Locations:** Hiroshima University (広島市立大学), A-CITY, Edion Stadium Hiroshima (エディオンスタジアム広島), Hiroshima Bay (広島湾), and the Hiroshima Bay Bridge (広島湾大橋).
- Transportation Routes:**
 - Highways:** Route 1 (広島自動車道), Route 2 (山陽自動車道), and Route 183 (山陽新幹線).
 - Local Roads:** Route 54 (山陽本線), Route 183 (山陽本線), and Route 2 (国道2号線).
 - Public Transport:** JR lines (JR山陽本線, JR山陽新幹線), Hiroshima City Bus (広島市バス), and the Hiroshima Bay Bridge Bus (広島湾大橋バス).
- Bus Routes and Stops:**
 - Green Line:** Connects Hiroshima University to the city center via the Hiroshima Bay Bridge. Stops include 広島市立大学, 広島湾大橋, 西広島, and 新井口.
 - Orange Line:** Connects Hiroshima University to the city center via the Hiroshima Bay Bridge. Stops include 広島市立大学, 広島湾大橋, 西広島, and 新井口.
 - Purple Line:** Connects Hiroshima University to the city center via the Hiroshima Bay Bridge. Stops include 広島市立大学, 広島湾大橋, 西広島, and 新井口.
 - Blue Line:** Connects Hiroshima University to the city center via the Hiroshima Bay Bridge. Stops include 広島市立大学, 広島湾大橋, 西広島, and 新井口.
- Other Information:**
 - 広島市立大学サテライトキャンパス (Hiroshima University Satellite Campus):** Located near the Hiroshima Bay Bridge, it is accessible by bus from the city center (大町四丁目1番1号) and is scheduled to open in October 2025.
 - 広島市バス (Hiroshima City Bus):** Provides service to various parts of the city, including the city center and the Hiroshima Bay Bridge area.
 - 広島湾大橋バス (Hiroshima Bay Bridge Bus):** Provides service to the Hiroshima Bay Bridge area, including the Hiroshima Bay Bridge and the Hiroshima Bay Bridge Bus Stop.



- 所要時間は目安です。
- 広島バスセンター発→きの木台:「沼田ループ右回り 広島駅」方面行きのバスは、「市立大学前」バス停を経由します。
広島バスセンター発横川駅経由「花の季台」・「こころ西風梅苑」・「こころ産業団地」・「こころ南」方面行きのバスには、
「市立大学前」バス停を経由する便としない便があります。「市立大学前」バス停を経由しない便では、「沼田料金所前」バス停で下車してください。
- 「市立大学前」バス停から大学までは徒歩1分、「沼田料金所前」バス停から大学までは徒歩8分かかります。

ディレクター／伊藤敏春(株式会社中本本店)
アートディレクター、デザイナー／森元賢司(株式会社インフォ・エヌ)
コピーライター／加藤祐子(株式会社インフォ・エヌ)・中川泰子
撮影／栗根靖雄

監修／広島市立大学企画・広報委員会
印刷／株式会社中本本店
発行／広島市立大学
発行日／平成25年7月1日



広島市立大学
〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号
tel.082-830-1500(代) fax.082-830-1656
<http://www.hiroshima-cu.ac.jp>

広島市立大学は、財団法人大学基準協会による大学評価において、大学基準に適合していると認定されています。

